836
209
3

莠草年録

鬼報録

百

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』請求記号 836-3

ガラス使用

鬼報録第十三輯　戊辰九月

目録

一 越後國御太名御嘆本御領分御預所
二 相澤敬自三條宮山田兵衛書 八月廿五日
三 菅鉞自五泉宮三條相勤書 全日
四 在越府國富宮其家歳書 全日
五 金井弥總与家方書 八月廿六日
六 村松塔自家郎子大十郎あ婦
七 松山浪複自津川宮実父宮原良碩吉 全上
八 金児砲長八月九日書
九 久保英申自征会陣中宮宮嘉生書 全上
十 西申宮汁磐書 九月二日
十一 神武敬申記
十二 北越陣中近藤軍監書 九月四日着
十三 金児砲長九月四日書 全十日着
雑説 九月十日ゟ 十五至
西上信両浮浪氏集会盟軍藤村宮郎来ル 九月十日着
五 北越陣中金井清八郎宮家方書 九月十五日着 附仙台記説
六 雑説 自九月十七日 至今十九日 悪名苦戦初ル 着
七 自仙台注進状写
八 水野村名を某書

大正 9. 5. 27 購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

十九 雑説
二〇 金精氏所遺自敘材松谷秋通稿本
二一 金精之輪 九月十二日
二二 追錄坊間珍事二名
二三 津田使者自奥州陣來書 九月十二日
二四 紀聞 九月二十一日 殺死姓名
二五 金井氏書 九月廿一日
二六 近民氏書 九月十五日
二七 金井氏書 九月廿一日
二八 紀聞 九月廿三日 〃 廿五日
二九 新令三條 天長節 東幸 先帝忌辰
三〇 風聞 九月廿九日 十月二日
三一 自京師来狀秩 布令二條 罪位 改元
三二 樋口藤氏持来會津退城行営後
三三 會城君臣降伏歎願書
三四 宮江馬輔九月廿三日宮守書
三五 金井氏申夫人上金忠申之事并今春移住之事
三六 城中愚人日買米之事并姓名及當城圍
三七 雑説
三八 十月二日新報會城降伏和談
三九 西甲寅九月廿三日宮守書
四〇 庄富寅宮守書 九月廿四日 陷落迄
四一 河口嘉助寅宮守書 九月廿六日 〃
四二 圭吾役近藤某書 九月廿八日
四三 命僕隊田中生書 九月廿八日夜
四四 柏書病院之次第今井田孝順寅守書
四五 高橋敏明詩序

一 越後國 御大名 御旗本 御領分御預所見越後土産初篇所出物

十五万石	頸城郡高田城	榊原式部大輔	
十一万石	蒲原郡新発田城	溝口主税正	
七万四千石	古志郡長岡城	牧野駿河守	
五万九十石	山名郡村上城	内藤紀伊守	
三万石	蒲原郡村松城	堀 左京亮	
二万石	三島郡与板城	井伊兵部少輔	
一万石	頸城郡糸魚川	松平安房守	
一万千石	蒲原郡三根山	牧野伊勢守	
一万石	刈羽郡椎谷	堀 出雲守	
一万石	蒲原郡黒川	柳澤民部少輔	
一万石	蒲原郡三日市	柳澤彰太郎	
六千石	刈羽郡春日	安藤内蔵之助	
二千石	同郡高町	安藤外記亮	
五千石	蒲原郡池ノ端	溝口讃岐守	

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

四千石　蒲原郡沢海　小濱盛之助
五千石　同郡高野　松平小豊沢
千石　三島郡小島谷　稲葉新太郎
千石　蒲原郡山口　溝口奥太郎
二万石　岩船郡金谷村陣屋　一橋殿御領
六万石ヿ　新潟御奉行地
五万石　預城郡浦川陣屋
六万石ヿ　三島郡出雲崎陣屋
六万石ヿ　蒲原郡水原陣屋
五万石ヿ　勢州桑名ノ後預　刈羽郡柏崎陣屋

一万三千石ヿ　羽州米沢預　岩船郡塩ノ町営
一万二千石ヿ　新発田御預
一万石ヿ　高田御預
諸大名御領地
六万石ヿ　柏崎陣屋　松平数中守
五万石　蒲原郡福岡陣屋　松平肥後守
二万四千石　蒲原郡一ノ木戸陣屋　松平右京亮
一万五千石　三島郡七日市陣屋　松平山城守
一万石　蒲原郡五泉陣屋　駿州沼津　水野出羽守

高合九十二万三千七百九十石余
六郡村数九四千五百二十七

相澤敬之助自北越三條陣営山田兵衛書　八月九日

昧冷お考之義無之候得ハ此度之事ハ其三条ニ志人共ニ而ハ殊ニ残
兵ニ引請候ニ而ハ上下四人之応援ニ而ハ兎角ニ而ハ備又大ニ苦
談ニ而ハ四人之内ニ而ハ誰ニ而ハ不可ニ而ハ
一五泉ニ而ハ黄氏ニ而ハ一ニ而ハ
ニ而ハ

会津

不相当ニ而ハ天下ニ而ハ
談ニ而ハ後ニ而ハ
頃ニ而ハ朝日ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一新発今津川迄九里　一旧城ヶ若松城下迄七里

一津川ヶ若松迄四里

一津川ヶ先キ車峠迄八里余其車峠ヨリ峯ニ見ユル山峠家但小屋

一津川ヶ若松ノ間ニ多ク行程時下野ノ称ヘ

平地ヲ重要ス

下ノ事ヲ定ルヤ否ヤ未タ詳ナラス

ヲ以テ会津ヲ去ル二十里ノ地ニ在リ一面ハ山上山下ニ三軍ヲ分チ

ヲ以テ会津城下ノ方ニ向ヒ一面ハ若松ヲ守リ

ヲ以テ若松ノ方ニ向ヒ一面ハ会津城下ヲ守ルヲ以テ

ヲ以テ若松ノ城下ヲ守ルヲ以テ

ヲ以テ車峠ヲ守ルヲ以テ

ヲ以テ

ヲ以テ

以下数回の往復與板表へ到着和成り而已にて
駿州沼津辺は人数未だ経国元より到着無之
三十八日備へ有之哉方山野に充満候て
彦根両藩と戦争に及候由にて
八月廿五日
会津進
会津降参之事実否

右正義と家臣芝を引率　官軍に降り直校先鋒致し実効を表し候段
お褒め申通ず　仍て板垣退助より達す
第四月廿一日午後ら　仍て如件

村松　堀　貞次郎

仰ぎ願くは速やかに降伏の申し立てこれ有るべく候事

辰八月

七　松山良複越後津川ゟ實父宮原良碩書　辰八月廿九日付重陽迄

前略然者廿六日五泉宿ゟ認差出し之書状今日ゟ四里程ニ里数之所ゟ野宿同様夜具ゟ
八ツ半時頃五泉を進軍同夜ゟ石沼ゟ五泉ゟ四里程ニ里数之所ゟ野宿同様夜具ゟ
ル二切ゟ之食事ゟ村役ゟ付　もちひき人有
之夜前ゟ大雨夫ゟ石戸ゟ下ゟ条ゟ是ゟ筆力ゟ難尽ゟ
廿三日ゟ二人持又ゟ大谷松ゟ更ゟ通路当家
兼ゟ偽有実ゟ吟ゟ一ゟ後ゟ下ゟ谷津村ゟ昼飯ゟ食し支
ゟ半ゟ程ゟ下ゟ引上舟ゟ着地入込ゟ人数ゟ仇乗込大牧ゟ村ゟ登ゟ右ゟ舟ゟ入ゟて
別段ゟ家ゟ屋ゟ湯ゟ舟ゟ登ゟ不申ゟ湯ゟ冬駒峠ゟ下ゟ通行ゟ後ゟ下ゟ得ゟ右ゟ儀ゟ
雨天ゟ冬ゟ芝荷物ゟ通路ゟ一切不相成ゟ如ゟ座ゟ故極急難ゟ事ゟ承知仕ゟ由大牧村ゟ
登ゟ夫ゟ津川町近一里半同ゟ昼七ツ時ゟ到着ゟ則廿七日着ゟ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一賊徒追々敗軍ノ上八月廿四日津川近敗走ス官軍ヲ同所ニテ一戦ノ上撃破シ勢ニ乗シ勝左右ノ高山ヲ大小銃如雨千餘唯一戦ニ得ル処ナク相違ノ上官軍勢益乗勝左右ノ高山ヲ大小銃如雨千餘唯一戦ニ津川ヲ敗走シ右八月廿五日之戦争ニ座ル直ニ津川ヘ乗込同日夕五ツ時ニ至テ奥州ヘ敗走ス官軍ハ最早今日ヲ限リ奥州野津ヲ沢ノ有之ル野村ヲ不取敢官軍追撃ノ相成ト最早今日ヲ限リ奥州野津ヲ沢ノ有之ル野村ヲ不取敢官軍追撃ノ相成ト処近軍ヲ撃破ノ上官軍ヲ則薩長松代越前新発田高田村松抔ノ軍ヲ処近軍ヲ撃破ノ上官軍ヲ則薩長松代越前新発田高田村松抔ノ軍ヲ引受ケ先北越ヲ敗走ス敗走ス一人モ居ラサル外一手ハ八十里越引受ケ先北越ヲ敗走ス敗走ス一人モ居ラサル外一手ハ八十里越ヲ引受ケ奥州ヲ一気ニ急不津川ヲ敗ラレハ先奥州今津城ヲ手ニ入レ且ハ又一説ニ千石川口官軍ニテ今津ヲ奥州ヲ一気ニ急不津川ヲ敗ラレハ先奥州今津城ヲ手ニ入レ且ハ又一説ニ千石川口官軍ニテ今津ヲ引受ケ実説ニハ得ト承リ候ヘ共未タ実説ニハ得ト承リ候ヘ共未タ

一津川町ヲ石町ヲ以テ今般御為ニ故津川ヲ賊ル時ニ論ト云ヒ居ル旨ニテ一同感心ス

一家ノ人数ヲ津川戦争ニ御ヲ撰ミ津川隊五番戦士ヲ限リ外従ノ人数廿七日八日ヲ着ニ相成直ニ牧野隊六番戦士ヲ以八日採出シ相成ト定ノ下野庭ヲ御廻ヲ軍ヲ承知仕ト御廻師ノ上ニ而ハ翌廿日又兎上附属医大日方右ノ人ヲ野庭迄ヲ軍ヲ兎

一津川　天満村　野村　花立村　羊石村

一八木山村（焼）　福取村　八ツ口　奥越境鳥居峠

一宝川　白坂村　川谷村　車峠　下野尻

一上野尻（細沢）　苅沼村　野津沢（此所近キ小峠有之別段ニて難所ニ無之候得共津川ヲ何所迄モ川ヲ渡ル）

一縄津村　桂津沢村　来松峠（シラマツ）　天屋村

一戸門村（ノド）（此間ニ舟渡リ有リ）　秋波村　金村峠　塔寺宿

一坂下宿　高久宿　野沢宿　高久宿迄七里

先ヲ宿人多ク之候間兼テ急ギヤルヤウ可申聞候

八月廿九日認

御父上様　御前

直親

（十）北征金児破長　八月廿九日書翠九月十日（晩）達　（ヨリテ）年分字

扨津川口ヨリ二三関夫ヨリ津川迄ヤ三里ヲ慶其道ヲ賊兵ヲ改急ク誦訪峠向ヘ出向ヤ
拠申未昼夜ヲ廿四日昼前柳新田ヨリ甲ヲ出ヲ直ニ相向ヘ壹場ヲ築キ始羽三日
烈敷キ事ハ過賊退行申ハ御家大破詰ノ長州一門ニハ小銃隊ヲ一向キ申
ハ廿六日晩系迄津川ヘ出廿七日昼又ヘ焼山向ヘ探ヲヤト金漬ヲ廿三日夜火ヲ
廿四日モ有テハ廿五日ヲ大造ヲ煙ヲ夜ニ入宮ヘ移リ申ハ廿三日夜ヨリ同拠ヘト何
ヲ破迄ハヲ多ノ近日成功可相成然時ヲ米沢荘内直ニ片付可申是モ速先日
ヲ落城ニ説モ有之ノ先ニ大変ニハ先ヲ国ヲ守ヲ世下

九月九日　九五ノ刻

犯ニ今ハ城責ニ今日相成申ト一方日ヲ片付可申ト
表ヲ廿十月始ヲ吟ヲ吟ヲ有ノ心止

久保英甫従征令陣中寄宮下右生等 改原八月廿九日付 九月八日従奥州塔寺端発

余来折後四海法仕ノ条全陣中紙ヲ乏シ如意不本ヲ憾ミ況ヤ日経空ノ如キヲヤ況益ヨ多一ノ之ノ在ルモ不能 職北ヲ不能 ヲ

官軍四面囲ヲ以ル ノ故ヲ津川ヲ険要ト称シ数里ヲ退ケ僕ト

廿四日午後ノ廿五日申牌以迄諏訪峠向御新田ヲ ヲ津川ヲ数塁砲戦仕ト後ヤ

ホノ拂暁津川ヘ進軍 廿七日四ツ半旅修理ヲ以 同駅警ノ野尻ヘ押込ノ

案仕ト若松ヲ含三四ヲ ヲ ヲ大火ヲ城下悉焼失僅ニ城ヲ残シ残兵城中

ヲ ヲ官軍四面囲ヲ ヲ其故ヲ津川ヲ険要ト称シ数里ヲ退ケ僕ト

廿四日午後ノ廿五日申牌以迄諏訪峠向御新田ヲ津川ヲ数塁砲戦仕ト後ヤ

ホノ拂暁津川ヘ進軍 廿七日四ツ半旅修理ヲ以 同駅警ノ野尻ヘ押込ノ

ヲ又会議所ヲ ヲ ヲ

旧綱木と云ふ又戦争有り西郷官軍勝利其後津川を隔る対岸砲撃ち合ひ
翌廿五日昼頃村松が津川に越る矢澤口を賊出故何ごと無く西
道々糸辺に賊八木山に出ると聞くて翌廿七日八十山に近軍ら夫の
ごとく多く故八田寶川と一宿り進んで白坂と争ふ夜四つ半以ふ夜飯を喰ふ未
ごく前に賊野澤に在ると聞後ふ九つ過白坂を立つ同道が夜中進ふ糸峠山にて
一ぱい通り実に難義なり無澤と云所ふる迄ふ昼頃着ふる見ると賊ホ二十七日ごろ引揚ふる
とふまで追ふ事ふる不同道が柳津ふ同進事故後ふ進ふ柳津賊死
集着ふ坂ノ柳津ふ只見川ふ向ふ随分要地ふる所軍を石坂村ふ陣
を取小巻橋ホ及乃川を挽て発砲長州報国隊ふる三人ふ負ふり此子
ホ小巻上迄作候ふ行きふる薩州一旦引揚ふ発砲ふ引揚ふ長窪村ふ夕飯昔

ごと所澤と云所ふ同程出会有ふ此所澤を小巻が川峯を八十里ごと方へ登ふて一里
程ふ行ふて此道を進ふ不能依ふ土月坂村が祝宗法泥布澤小松山ふ掛ふ所
澤ふ同進ふ筈ふる御家ふ一小隊切ふ為ふ夜中進ふ泥途ふ難義ふる少ふ
眠ふる二十九日小松山ふ進ふ時ふ柳津が八十里ふ越ふ中澤昼日
ふ原ふ屯集有ふ故ふ何分所澤ふ不能進依ふ小松山に滞陣ホ晦日西方が注進ふる云数雪方
ふ日ふ原が川を北ふ渡ふ八十里ふ行ふ道ふる又野澤ふ通ふる賊ホ昼頃川ふ向ふ有ふ船を川
上ふ引揚ふ尚寒ふる川を渡ふ放火ホ難計ふ何ぶ千十人ふる二十人ふる程迄が成下
候様歩ふて元一小隊ふ諸道和ふ静ふ為ふ又敵若星黒澤迄半隊探出ふて
ふる夜ふ半過雨ふ中探出ホ賊六十人程西方ふ渡ふ故妨無ふ
依ふ小松村迄探出ホ賊ホ九月朔日昼頃長州ふ兵二小隊石坂ふ小松山ふ
掛ふ其道ふ難所ふる雪ふ進み又野澤ふ通ふる雪ふ進み又野澤ふ通ふる雪ふ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

薩長ら之小隊探辺ら為ニ西ら之入口ニ行差ヲ出シ
築ニ有ら賊ヲ駆シ行候ヲ以テ多分戦争ニ相成皆ら弁当ヲ支ケ戦争ニ相成皆ら弁当ヲ
含ら槍組実ニ故遂ニ接戦ニ相成薩ら死傷十人ら有ら長ら小松山ら行シ
兵ら麻生村ら止銅山有ル此所ヲ村不残西ら之ら
川ヲ日ら原ニ渡ら処ニ将又津川本道ハ只是川ら向ニ賊有
ら故ニ是ヲ川ヲ挟ら発砲ら由今日十矢ニ分下何ら
ら不分明故行れ兼ら由ら之ら下 会津
ヲ由ヲもちてらヲ云ニ千四ヨリ人会津ら
着ら節夜ニ入ら又大ニ発砲ら其後
成業澤口ニ官軍探辺ニ相成城下町ヲ大ニ焼ら
何ニら有ら哉ニ仍ら有ら由 相其ニ業ヲ
ら上ら会津ら城ニ見由ら不ら此ニ
ニ有ら賊ヲ駆ニ小松山ニ会津ら
ら有ら処ニ小松山ニ会津ら
ら里ら云如形諸ニ
ら
ら水治ニ
ら

八十里越ノ

一 昨夕六ツ時認河口氏ニ参ら云川ら着宮崎ニ
小隊探辺ら為ニ方ニ人会津ら其ニ
御家ニ大砲宮下大嶋ヲ追ニ右探辺ら由ニ御家ニ

此下山形ヨリ右ノ方是非兵隊探ノ為ニ御差遣ノ事

一 本名近進軍ニ相成リ候ハヽ一日モ早ク戦場ヘ御着ノ方ト存候間（不）
付ノ儀ニ付隊長ニテ進軍六ケ敷御座候ハヽ隊ヲ引連レ御着ノ事ニ甚残念ニ候間付何卒ニ隊ヲ引連レ御着ノ事ニ御座候ハヽ御探ノ為ニ御差遣ノ事ニ御座候ハヽ御探ノ為ニ御差遣ノ事ニ御座候ハヽ御探ノ為ニ御差遣

北越陣中近藤軍監書　辰九月四日付

前略扨又存外會賊も逃去り五泉邊ゟ津川近く嶮を此迫路打こと幾倍と申程こ而
實ニ一夫萬當之地ニ而左為迚も進撃を出来兼候ニ付
も陸々不支當時天屋元角迄ハ津川ゟ水上ゟ小流ニ而右河を隔々防戦仕候
此河水枡津河ゟ芝崎辺迄二里程ニ而堅を築ニ若後實ニ進退谷りハ必死ニ而
防戦仕候得共官軍奮戦勇敢ニ日々進軍容成ハ不遠敗滅ニ後と存候
タ五泉出立同夜谷澤ゟ了不ニハツ半時境着ニ而休息致し翌三早朝津川近邊
就同所ニ而ハ官軍兼込ニ六日早朝蛾川隊五番戦士大砲二門進軍ニ八日曉布植隊七
番戦士進軍ニ付私儀一同初進ニ而野尻ニ至り小憩牧野隊ニ出馳ニ在ル野沢會談ニ
付同所ニ宿陣ニ而翌津川ゟ野尻ニ五里ニ而翌夜ニ入牧野隊ニ番士芝崎口
ニ相進ニ而布通有之出立暁八ツ時布植隊ニ而番士私ニ一同野澤ニ初進ニ而三ツ半

九 諏後益
會津父子
松山父子
改米名
唐津
長岡父子
村松
一説佐倉堀田侯
ハ今俊中ニ在リ彼

東松峠を越天屋元角此所津川ヲ河上ヲ小流アリ河向賊塁ヲ柵ヲシ見仕度ハ所柝雨天ヲ東松峠ニ引返ス九月朔日晴天ニ付行又東松峠絶頂ヨリ遥ニ「遠鏡ニ宮方品ヲ之ヲ「名松城ヲ一望仕ル所道程四里半程ト申ハヘキ直見ユル三里程モ有之城下町家中ヲハ不残焼失ハ申事ニ赤ク相見ヘト新築四方ヲ塀ヲ矩ヘテ天守モ未ダ有之ヘトモ天守モ相見ヘル城後ニ山平ヲ高山ト申事其半ハ成程ニ木有リ赤ク見ヘト内ニ天守モ相見ヘル城後ニ山平ヲ高山ト申事其半腹ニ大砲ヲ打ト相見烟ヲト来落候ハ多ヲ此ハ半里程ヨリ見ヘル近日屡ト多ヲト此一城ニ諏後九人ヲ共ヲ由板倉父子モ共ヲ由若松城下ヲ越後者ヲ多ヲ居迚朝ヲト帰人ニ話ヲていハ二ノ丸ニ八月ハ駐ヲ多板成ハ三百勅所方一所ニハ炊出之人ヲアリ此女米ヲヲ搗ヲ所銃丸薬ヲ多ヲ有知ハ大ヘ東信ヲ処ニ鄙ハ上町ヲ方放火ニ相成半里程毒ヲ見ヘルハヲヲ七ヶ所放火其後見ヘル家中モ放火ト申事ヲ如何ヲモ不意ニ押ヲレ其狼狽想像セラル処ヲト長岡家人モ近日小児ヲ災ヲ負雨ノ降ルニハヲヲ多ヲ

此ハ家ハ多ヲト會津ハ朔日ヨリ十三日迄野澤ニ出張其境迄ハ城下ヲ二三ヲ手ヲ之ヲ方ヲ

滿己ノ官軍ヲリ出兵ヲヲ九処何時何敗ニ今ヲ奔ヒタルヲ不審ヲ之ヲ

ハ小供ノ者ハ雨ヲ多ヲ故背中ヲ注キヲテヲヲ親モ泣キヲヲ歩ヒタグレトモ多ヲ由ヲ會ハ著ヲ我名又如彩ヲ老幼婦人ハ實ヲ氣ヲ毒ニハ座ヲ迄ノ為ヲ共モ泣ヲ親子ノ多ヲヲ見気ヲ毒ヲト相俗ト多ヲ共ヲ此地ヲヲ不遠為成功ヲ多ヲヲ多ヲト米澤ハ戎部大輔杉人ヲ頃新發田ニ降参ヲ由ヲ米澤ニハ向ト官軍モ直ニ庄内ニ有機ヲルトテ多ヲト先ヲセハ仙庭南部武賊ト相成南部ヲ方ハ佐竹ヨリ今般迫ヲ共ヲ頁ヲ由ハ二ヲ多ヲ降参ヲト多ヲト侯ヲ約ヲ降ヲ仕ハ頭兵共ヲ官軍ニ帰順

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一昨夜来ノ雨ハ今朝ニ至リテモ猶ホ降リ続キ小松山ノ山ノ一部ト共ニ附近ノ田畑ヲ水浸シニシテ実ニ寒冷ノ感ヲ新ニセリ

九月廿日

馬之助

民之助

(十二)金児砲長九月廿四日当直ニ付キ午後七時過ギ日暮ニ至ルモ交代ノ来ラザルヲ怪ミ居ル処ヘ砲長ハ追ヒ来リ和成ノ家ヲ弥平太ノ家ヲ経テ津川ヲ渡リ落延ビヨト言ヒ津川ハ其ノ時既ニ他ノ見張所ヨリ通報ヲ受ケ居リシヲ以テ砲長ノ言ヲ聞キ流ルヽ如ク津川ヲ渡リ落延ビタリ

翌廿五日ノ夕刻ニ至リ津川ハ戦況ヲ探ラントシテ再ビ小松山ニ登リシニ砲長ハ既ニ死ニ居リシヲ以テ其ノ死体ヲ検シ見ルニ左手ニ銃ヲ持チ右手ニ短刀ヲ握リ居リシヲ以テ大ニ評判ヲ取リタリ

是ヨリ先キ砲長ハ火勢ノ盛ンニ燃エ上ルヲ見テ火勢ノ鎮マルヲ待チ居リシガ火勢ハ一向ニ衰ヘザルノミナラズ却テ風ノ為メニ吹キ募ルヨウニナリシヲ以テ砲長ハ家ヲ焼カレテハ一大事ト思ヒ家ニ入リ込ンデ見ルト又モ同僚ノ死体ヲ見ルヨリ外ニ仕方ナク止ムヲ得ズ其ノ場ヲ立チ退キ小松山ノ山ノ一部ニ登リ大砲ノ手入レヲ為シ煙ヲ立チ登ラセヌヨウニ注意シツヽ夜ノ明ケルヲ待チ居リシガ夜ノ明ケルニ従ヒ敵ノ兵ハ追々ト集リ来リ遂ニ砲長ノ死体ヲ発見シ先ヅ之ヲ片付ケ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

十一日

十三日

三 雑説

一 九月八日東京発十日達伊勢平松与三より書状

一 九月二日京出発之由にて当月五日夕来宅、直宗法話之事、
并に議論の次第東本願寺も相招待候筈、
光寺伝馬町専修寺江戸本部錦織寺越前鯖江誠譲寺也新政如彼改令終し
て和通し抗し自宗を護らん為め諸寺一和之大坂に会合之由
十三日夕北越津川々岸着 宮川鉾子郎九日四ツ半頃
当九月五日発ニ
一 津山藩通路新潟より故郷一泊花と云う
う終夜て列て敵に近く迫ること所々
山より攻て敵方へ列戦に及ぶ由
これ主会戦故伊勢へ通行

一諸家大砲アルニ ライフル砲ハ多ク攻砲使用ヲ要スルヤ
ヲ問フ 我ガ方ニ於テ用ユル處ノ二十斤ノ長
ヲ用ユルヲ以テ足レリトス
○長岡ニ於ケル後ノ要地ヲ扼シテライフル一門ヲ
モ多ク(ナシノ)ヲ以テ徒ニ行ルヽヲ
此ガ十ポレオンヲ壹輛ニ載セ破壊セラレテ者事ノ實ハ陳ノ引
揚ト共ニ砲身ヲ持チ砲車ノ輪ヲ外シ八千ヲ我ノ
砲車ヲ一輛ヲ奪ヒ始メ陳ヨリ捨テ
物故サレシ者ヲ送ラントシテ

一 越ノ五泉ヲ七日ニ引揚ル 細ヲ
土州藩ヲ七百人清川ニテ
一 薩ノ別働ハ米沢ヲ進ムヲ以テ
一 此ノ方牧野加一郎忠澤子ヲ以テ又吉人 ヲ

一 五泉ら村松迄之途中ニ而新発田ヘ往ら筈之処
九条ハ云ト之幼稚ノ為ニ駕ニ乗タリ 村松後者ハ方ナル故
一 上信之勢ハ越後ヘ侵入シ本営ら二歩隊 行
其ヲ以テ軍監トシテ 藤井四郎 村 之人ニ
し隊ノ九ノ字ヲ付ケ九ノ一ノ二ノ三ノ如ク
迎ニ参ル筈之所 致 ナルヘシ
一 津川ら加州 松任 岩国 明石ヲ歩隊ニ 一大隊ト為シ 教授 賢文 世伝 ヲ
被命タリト云大隊ニ 三千人ノ加州 長州 八千人ノ一小隊ト ス 其七ハ 教ハ三十人
歩隊之ハ名ハ ふ 幼君之命ニ 依スル 旦大隊ニ 大隊長 ハ 参謀 中隊司令使 大軍
監ホ 参謀 多勢ニ 備ル 為ノ如キ 申シ 運動 致シ 居 ル 由ニ 而 ヲ 以テ
ニ 之ヲ 置ク ニ 及ハ 一 条ニ
おゐて 如キ 申シ 聞ケ ふ 旨 也

一 津川ら加州 松任 岩国 明石ヲ歩隊ニ 一大隊ト為シ 教授 賢文 世伝 ヲ
被命タリト云大隊ニ 三千人ノ加州 長州 八千人ノ一小隊ト ス 其七ハ 教ハ三十人
歩隊之ハ名ハ ふ 幼君之命ニ 依スル 旦大隊ニ 大隊長 ハ 参謀 中隊司令使 大軍
監ホ 参謀 多勢ニ 備ル 為ノ如キ 申シ 運動 致シ 居 ル 由ニ 而 ヲ 以テ
ニ 之ヲ 置ク ニ 及ハ 一 条ニ
おゐて 如キ 申シ 聞ケ ふ 旨 也

㊎ 九月十一日越後新発田ら差立候人数
松代 松孝
飯田 一言遠
須坂 上田 佐山
岩村田 小諸 田ニ口
高井 古ノ湯ニ
今般信濃ら越後ニ信ら之処ニ集義隊ら侵入ニ 為
当時 死傷 多迷惑 ニ 依テ 右之 軍監 被差遣 候
第湯ニ 着ニ 陣所 ニ 而 決 事
九月
松代 二小隊
但 高兵 ニ 後ら 沿 ニ 通 テ 行ら 事
飯田 半小隊

上田　一小隊
一ノ堰　一小隊
田の口　半隊
〃

御用係ノ条　御本営ニ令議ノ為メ
九月九ノ
　　飯山　半隊　飯田　半隊
　　岩村田　半隊　小諸　半隊
　　二番隊　一小隊
　　〃
　　〃
　　〃

三條進軍ス追次、柳原ヲ本陣ニ津川表昨日出ス相成ト新官軍先鋒ヲ
柳津辺迄柳原ヨリ川ヲ隔テ戦争トナリ互ニ隊長二回ノ進ムルモ
御家ノ人数八十名戦ヒテ口ヲ引小隊 金児友太夫
小宮山三吉 ヲ進メ叶津攻撃中共他ハ皆
津川口ヘ向ヒ引ケタリト

一 米沢ヨリ仙台ヘハ二本松 柳倉ヲ兵隊ヲ押ヘ若干ヲ以テ会津ヲ攻撃ニ
ヲ処下知ヲ行ト会津ヘハ仙台ヨリ降伏ヲ勧ムルモノ

一 兵自ヲ固メヘハ依テ肥米依ヲ其他兵隊相加ヲ攻入ル如ク多ク報告ニ来ルト

一 白川落城 廿四日

一 柳倉落城六月廿ヲ

一 岩城平落城七月十五ヘ

一 二本松落城七月晦ヘ

一 三春ヲ勤王ニテ二本松攻ヲ先鋒ヲ以テ仙台ヨリ
有功ヲ中ヲ以テ前月十五日正親町殿江戸表ヘ出ヲ去ル四日白川ヘ着其晩廿五日三春ヘ
ノ挙動敵ヲ屈殿ヘノ交代ヲ事ヘヲ
如斯文ヲ勢ヲ成ト付暑気ヲ落城ヲ折ト推察シテ
二三里ヘ山中ヘ家財共運ビ外ヲヲテ官軍ヲ
ヘハ於ヲ近ヘ生ヒヲ引ヲ引ヲ話ヲ着ト次ヲ追軍ヲ成ヘヲ右ヲ
ヘハヲ参ヲヲヲヲヲヘヲ先支近ヲヲヘ
此津川口ヲ険阻ヲ要地ヘトヲ御家ヲ
隊先鋒ヲ参ヲ引ヲ降参ヲ急ヲヲ故ヲヲ
ヲ隊ヲ引ヲ助ヘヲ

廿四日ノ夜五泉ヲ着ヲ 清八手

[illegible]

一 此ノ兵隊ハ廿五日ニ仙臺ヲ發シ福島ニ行ク筈ナリシカ途中ニテ引返シ八十里越ヲ經テ仙臺ヨリ直ニ秋田ニ向ヒ進撃スルコトトナリシ

一 米澤藩ノ二本松ハ米沢ヨリ援兵ヲ出シ柳含岩城ヲ攻メ板倉ハ殿ヲ承ハルト云フハ賊ハ皆米沢ヲ指シ多勢ヲ不ト仙臺ニ攻撃ヲ加ヘサルヲ以テ

○白川之戦

五月廿五日朝ヨリ時ノ特進戦争互有死傷ヲ引

賊千余人　官軍六百五十人程

○白川後之戦

五月朔日落城官軍三方ヨリ攻込ム

賊勢人数三千余人　官軍人数之内人ハ特進長大垣忍

賊死人六百八十人

右之通ニ不取敢書記置候ものニ而其後之儀ハ追而書記候筈ニ候

官軍之内ニ死傷僅ニ八人賊ハ後迄ニ多人数討取候筈ニ候

五月廿六日　六月十二日　迄ニ

右ハ米澤ヨリ土州板垣ヘ申越候書面之写ニ候

賊二百ニ而後ヨリ追掛ケ

六月廿四日柳含落城自ラ放火仙臺ニ逃去　三字進軍十字急戒

官軍人数凡八百人程　落長土大垣忍黒羽

右官軍死人多ク

此後白川陣所ニ而記置候

忍陣所ニ夜襲ニ而

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

○奥州白川を漸心得忍藩山田求馬ら備営

六月廿四日三字白川進軍二手に分け薩長大垣撃藩布通を進む営山林嶮岨戸村にかゝり賊砲基を設け石人祠傍を拠賊営山上より大砲数発を発し我兵六人其傍稍営近き夫々直様布通進軍金山宿前を三手に分れ本道は薩兵大垣撃藩黒羽打交り追撃手金山宿を取賊兵も仙台桑折より都合五六百人程援として繋ぐ夫より進撃手薩大垣黒羽ら河道を進み長州撃藩布通を進み桐の家杉原ら賊砲基を築き左右に伏兵ら黒賊ら打出ども皆芝原ら又那時、追撃桐の家桜下口へ繰入奥兵ら大砲二三発ら打掛ら外賊ら敗北火十町ら賊共敗乱水戸兵津藩ら

六月廿六日

君侯

山田求馬

○長州藩

鎮臺日誌抄録

板橋石黒鎮臺日誌ノ抄

七

去月廿四日郭五字四軍後ろも黒羽撃藩布陣羽ら手五日田谷桑萱田村ら手陣羽ら手六日堂宿手発ら大田原ら手降伏手施軍ら手賊下ら云ふ八日朝七ら堂宿手発ら矢鋒黒羽撃藩ら仰

軍令部ヨリ　仰付ラレ候ニ付テハ一分隊差出シ候事ニ
三十人程ノ警事ト存ジ而已敵ノ大砲追撃ノ為メ
ト云フ事ニテ
八月

一七月十二日未明函川ヲ下ル仏ノ賊千人余押寄セ根士切ニ
云ヒ付戦争数時ニ及ビ賊ハ九人余打殺シ大砲三挺分捕
候得共ニ日死者人数我ニ二十四人余ニテ候処五人ハ
義勇兵ニテ戦闘終ニ
　　君高
　　山田市馬
　　白根右
　　常吉
　　高吉

右之者共常吉母西ヨリ馬喜ヲ乗セ
　　村名

今津ニ日着致右五人ノ
　　所名
名ヲ連テ兵粮方人数ヲ出ス古軍様
ニ入国ヲ成右兵粮ヲ運ビ去ル事様ニ
時白川近所宿ヲ仕ル事ニ候得共敵ニ
跡ヲ慕テ追撃ノ為メ
　　薩藩ヲ以テ
　　仮北知ニ
　　土ヲ
　　板垣退助

右筆録ヲ送ル

因記板垣退介ハ土佐ヲ去ル事此ニ千石ヲ領シ今茲
辛未年退介ハ福ヲ免ヲ子ニテ東山ノ
江戸ニ住ス君公ニ従ヒ東下ニ大阪ヲ又板垣ニ帰ル
東京ニ来ル人之ヲ以テ知ル事ヲ得ル人之ヲ以テ知ル事ヲ得ル人之ヲ以テ知ル事ヲ得ル

一越、十日町病院を引揚此地天英寺を病院トス。長岡ヨリ軍医ヲ始メ看病人
数名（女ハ男ノ如ク袴ヲ着ス）昼近ク病院ニ着ス。直ニ負傷人ヲ分チ入ル。
一多人数ノ負傷人ヲ救フニ当リ、敵味方ノ差別ナク、先ツ生ヲ獲シ本ヲ待シ先ツ生ヲ所置シ頭項
ヲ針ヲ打ツ如ク焼灼ヲ立ツ大ヲ施シ之ヲ苦痛ヲ止メ遂ニ後ニ及ビ勝ヲ制シテ
修ヲ引キ之ヲ嗤フニ云ヘルヲ以テ又ヨク敵ヲ知リ情ヲ察スル如キ名言
其ニ功ヒ君ノ名ヲ辱メサル和服ヲ着ス。残君後陣数名ヲ率ヒ我奥山
ノ野砲ヲ傳セラレ、長人遠鏡ヲ以テ見ヨ女子ヲ軍ヲ築シ敵ノ山ヲ
ヲ匍匐シテ近ク女ヒ傷ヲ以テ金銃ヲ故多人ノ言ヲ称レ敬ヲヤ
ヲ以テ天幸ヲ以テ後ノ為ニ考ヘ、若死ヲ免ルヘクンハ実ニ之ヲ
一十七日、病院傷者ヲ十人計ヲ送ル士ノ実ヲ以テ陽大ヲ以テ為ヲ分ヲ以テ英病院

未成之各営屯所ニ而ハ防ぎ難きニ付、一ト先ツ兵ヲ引揚ケ、
ツヲ多勢ヲ以テ追撃ヲ加ヘ、新発田ヲ取返ス計略ニ而、
一 柿崎ニ而ハ官軍ハ、庫柱泉ニ行ク、其兵ヲ赤川ニ移シ、
茅ヶ入ニ而ハ官軍ハ、赤川ニ行ク、其兵ヲ庫柱泉ニ移シ、
互ニ敵ヲ欺キ、イカリテ退ク事ヲ知ラズ、
一 十五日ニハ、看ヲ張リ、通達ニ及ヒ、
多勢ニ而ハ、知レヤスク、
一 京門ヲ山階宮ノ御預ニ成ル、
一 若シ一向ニ降ヲ乞ハヽ、官ニテハ、
一 降ヲ乞ヒ、行ヲ改ムル時ハ、

十八日

北條ヲ新田ヨリ多勢ヲ以テ攻ル、
一 官兵火箭ヲ発シ、
一 北陣ヨリ同賢ヲ以テ、九月十八日牧野孫太郎勝利ヲ
戦ヒ、
一 九月十七日夜 十八日ノ北陣岩崎、玄蕃、長川口ヨリ人数ヲ繰出シ、
能登ヲ到ル、

十九日

能登戦

討死 藤井節助 近習
深手 中村煙太郎 小林勝太郎 近習
深手 三橋二千郎 牧野孫山 本庫之助
討死 吉村隊 松田栄太郎 滝 滝井徳三郎
小山新助 奥村良之助 五明栄次郎
深手 杉一八千喜 小林芳之助
総督護衛 井上佐助 野中弥七郎
深手 倉田新兵衛 三手 宮下宇之助
吉地義作 牧野隊 久保久重助 父

九月十日熊谷より賊千人程山より備く官軍八岩国勢ト吉田 牧野隊 吉村二隊程軍ヲ分ケ
る少数ニ攻懸ル賊ハ利ヲ失ヒ引上ル官軍ハ勝ニ乗シ追撃ス

熊谷距忍凡二里半
末澤道中

ル敵山ヲ追掛ケ二度迄ニ吉村隊高トナリ脇側ヨリ迫ニ吉村隊ハ平ト正面ヨリ迫ル
於テ両三度ノ戦ニ山ヲ下ル官軍ハ勝ニ乗シ敵ヲ追撃ス敵ハ利ヲ失ヒ引上ル
テ四ツ峯ニ陣ス我備サレ深入ヲ吟文左ヲ以テ諭ス依テ引揚ントスル
ト雖モ若我ニ乗シ引揚ルトキハ必ス背後ヨリ襲ヒ来ル故背後ヲ防
ヲ残シ中村ハ松隊ノ半隊ヲ以テ後ヲ殿ニ立テ退ク敵背ヲ衝ントス
ル事度々ニ及ヒ重モニ此峯ニ敵ノ兵名ノ兵ハ松隊ヲ又ヲ
ラレ終ニ十餘丁ヲ退ケリ

一 白川口ニ官軍ノ勢強ク敵後ヨリ攻ント聞キ遂ニ然ル乱妨ノ挙動ヲ聞ス
ヲ奪ヒ或ハ婦女ヲ好犯シ財宝ヲ掠メ蔵ヲ焼ク等ノ事ヲ為シ其ノ
家ニ入テ直ニ其ヲ喜ヒ田畑ヲ捨テ作ヲ為サヽルヲ以テ官軍ニ於テ
ハ其ノ事ヲ法ノ如ク厳ニ処置スル故ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用　挟み込み物

金精書ニ図不見或ハ脱欠

一 ……ニ而各陣営ヲ破リ大軍ハ落髪国主ヲ生捕リ又ハ……ニ而各陣営ヲ距ヲ……ヘ堅固ニ砦ヲ築キ……ヲ入レ要害ヲ……ヲ……ヲ……

一統平治之祝意ヲ表スル為ニ祖ヲ改ム云

一 京阿ヲ何ト名付ケヤ新武鑑ヲ乗ル人ハ何ト名付ケヤ 李笠翁第四番目ニ載

一 十日町病院ヲ芸ニ十人余移ス病院ニ入院ヲ許ス者ニ非ス病院ヲ退ク者ハ復タ入院ヲ許ス

一 会津ニ在ル長人 並ニ官軍ニ降ル者ヲ捕ヘテ送ル

一 本草綱目第四番目ニ載

一 数日来相離レ北陣敢テ脱賊ヲ侵入ヲ防禦ノ為ニ非ス又直ニ攻ムル事ヲ欲セサル為ニ

一 本草綱目第四番目ニ載ス 山田新左衛門

(十九) 雑説

味次第を回復多少兵士懐ろ中数矢係ニ到ル二ヶ月ヲ経ル
一相就ル話ニ本営士卒強勇ニより名ヲ賊ニ中銃
後ニ迄ヲ打ル者多シ強ニ等多ク
其後我士卒行如キ未ダ人ヲ強勇ニ傷ヲ痛ヲ故人ニ悔懼ヲ行ヲ称ヲ者ヲ
不称ヲ自ラ勉励ニテ自殺ヲ為ス故ニ
感奮殺ニ至ルヲ
士卒若ク諸隊ニテ部乱不律ヲ為ヲ者ヲ
其他ヲ銃後スルヲ彼殺ヲ懐ニ
ふりしぼりて活動ヲ為ニ
白ふるひ
一宇喜太郎ハ白ヲ着スル故ニ

若松近へまて攻入ら[ル]ゝ迄進軍[ス]ル文面[ニ]て差[シ]出[シ]ル大功
[ヲ]以[テ]各[ニ]以類功[ア]有[ト][テ]隊長[ト]姓名[ハ]今月二日
三日[ノ][ノ][ノ]

一津川ヶ谷陣下迄十四里八木山村ヶ峠ハ沢山有之候ニ付
ヶ一ト番先ニ立て行松峠ヶ下ニ而ハ敵後ヲ
名ヶ口ヶ此峠ヲ下ルト津川ト云（カタト）村ニ而船ヲ
今津陣下迄廿七里餘有之ト云ヘ共
一津川宿家数凡五百軒程ニ有之ト
今津表ヲ御発八月下旬ヨリ山ニ雪有之候ニ付十月廿日ヨリ夜陣ヲ
陣ヲ引ト十月八日ノ晩ヨリ大雪ニ而
大雪ヲ半馬ニ而行一切ヲ
太吉手村庄吉ヶ探索ニ付ト申者十三才ヨリ迄今津表ヨリ十二三ヶ所ヲ
話ヲ聞ニ行候ニ付ト
右ヲ夜表ヲ敵病院ヲ手氏ヲ写ス

（三）金精氏ヲ筆記　九月十六日付

第一敵ヲ誘ヒ込ム為ニ要地ヲ所ヲ保ツヲ能ク候ヘ共
隘道ヲ多岩石ヲ津川ヲ関ヲ通路ヲ橋ヲ
堂ヲト津川ヲ険阻ヲ場所ヲ要ヲ所ヲ僕ヲ夜分ヲ川ヲ
キ所ヲ今城下ヲ小高ヲ所ヲ敵ヲ孤ヲ兵ヲ夜ヲ入ヲト多ヲ
火ヲ付ヲ様ニ致ス事ヲ陣ヲ降伏ヲ
柿ヶ田右ヲ津川ヲ道ヲ先ヲ賊近日荒井総倉迄ヲ二千近
くヲ集ヲ噂ヲ八ヲ三ヲ藩ヲ戦争ヲ
小隊六七八番三敵士数来撃ヲ一小隊ヲ
ヲ若不取合ヲ様ノヲ一ヲ二日ヲ進ミ
候ヲ若ヲ確報ヲ心配ヲ

即死

即死　奥村幸之助（良カ）

深手　三浦六十郎

右之外手負死人有之候得共名前不知

一西国より藤井左門と申浪人一人罷越候由

一城中より女共を始め諸道具皆々大手へ引取候由

一男女とも一切出入無之候

一諸方散之賊共うろつき候を召捕候ハヽ速ニ可申出旨

（二）追録　城内ニ敵ありと聞て新発意の中

一後ニ聞九月四日館ノ原進撃ノ時トカ一体寺ニ入敵二人ヲ駆出シ是を追ニ追テ

井戸より其内城兵ハ討ニハ不知歟ニ元之銃ニ特衣装ハカヽル事ニ而ニハ

ニ迯ニ迯行過て時三河詰ノ川ニ

ノ時此内ニ有ル新発意ハ後ニ知レ此ニ捕ラレ追々ニ迯ル内ニ

ハ二ニ而ニ引ニ追回ル内ニ

満ノ内ニ引ニ捕ラレ処ニ

ニ而ニ引ニ捕ラレ山刀ニ

ニ而ニ引ニ捕ラレ麻ノ如ク

ニ而ニ引ニ捕ラレ

牧野左京亮
中村順太郎

深手

即死

即死

即死

○津田使番源吉郎自奥州陣所差越書状　九月十三日着

私事も道中之障無之九日奥州下野国宇都宮御本陣へ着仕候間御安意可被下候扨又天正十八年小田原御陣之節御進之相成私も同御陣へ御用ニ而参候見聞候ハ、城中ニ而後二千人程も一所ニ而おゝ勢ニ而四五万騎も一つゝゝ城ニ而有之哉此騒ぎニ而町人ニ而も人ニ相果候ハ、不了簡ニ候間早々ニ而も城下ニ而申上金銀唐ニ而も可申上候ハ、御進上ニ相成候様ニ可仕候間其御心得可被成候扨又会津家中之儀ハ如何様ニ相果候哉又ハ何方へ引取候哉委細承度候若し供ニ而も参候ハ、可申聞候扨又会津ニ而ハ何程之人数ニ而御座候哉其元ニ而ハ何程之人数ニ而御座候哉委細承度候当十一日十二日ニ会津ニ而御座候ハ、ニ日ニ而ハ参着仕候間左様ニ御心得可被成候扨又会津ニ而ハ何程之人数ニ而御座候哉其元ニ而ハ何程之人数ニ而御座候哉委細承度候

認覧會津福下行事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

六高七高八高女外数高長州の親兵岩國六人程之救ひ有之候家之
も大慶我人等の如き心配仕下度祝酒手義中ト共分候下之方之田
村之中ゟ千人程と集り候ゟ而已ならず候川狙山賊狙人之見込ミ
出張有候ゟ而、何事も最早延不申候ゟ而ハ遠行仕候ゟ仙
墓も米沢も弥浄条之義ゟ而ハ当冬ハ引取ニ致
候ゟ其外其地ゟ而ハ何程ニ而も御用立下候ハ、可申候ゟ而ハ
リヤト伺之候ゟ而ハ御祈申候ゟ而ハ御用雨天勝次第ニ寒ク候
ハ、速ニ仕下新年之御慶ニ参上仕下度
九ゟ十三日認
大隈辺戦争之節左之通
(西)戦士死傷

自賀　近衛友之助
〃　ゟ保之助
討死　菅野芳郎
牧野組
自殺　野中弥平
〃　久保久吉
〃　宮下宇右衛門
討死　山本金之助
〃　丸山清兵衛
自殺　三浦大蔵
吉村組
〃　小林勝太郎
深手　中村順吉

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一宮喜氏云、両度迄ハ敵勢心得ヲ以テ防ヲ設ケ、ふとゝ云ふ迄ハ進ミ来ル故、未的説不知、或人云ヲ聞ニ、去月廿日ノ比ハ又中頃ト聞、大将隆盛ノ死骸ヲ見ル者ハ無之、ものゝ有ル方ニ防兵ヲ備ヲ以テ死ヲ決シ、ふとゝ云ふ迄ハ進ミ来ル故、未的説不知、或人云ヲ聞ニ、去月廿日ノ比ハ又中頃ト聞、大将隆盛ノ死骸ヲ見ル者ハ無之、

一指宿ノ軍艦ハ又ヲ行方ヲ不知ト

一徳川侯帰藩ノ節已ニ御ヲ云

一去ル廿日頃ニ又戦ヲ以テ本営ヲ死傷ヲ多キヲ以テ

（六）近民手書　九月十五日着

存外舎賊敗走仕若松城ヲ官軍重囲ヲ解ヲ私モ十一日ハ若松城近ク義戦ヲ徹ヲ日モ当ヲ私及有様ヲ多ヲ途中男女死骸計ヲ一里ノ内ヲ害仕若老人松ヲ斬ヲ仕ヲ家ヲ多人死ヲ仕ハ格ヲ人ヲ多ヲ御家ヲ人数ヲ小新井高田ヲ迄ハ七張ヲ城下ハ全ク忠ヲ井ヲル武門ホボル方ンヲ門構ヲ天守矢倉ヲヲ井砲仕ヲ

九月十五日

（七）北陣金井氏書　九月廿一日着

一昨十九日昼過頃ヲ若松ヲ申ハ三里ヲ途中人ヲ侍ヲ者并兵隊仲間侍ヲ者共大方婦女ヲ有ヲ様ヲ引ヲ不切ヲ類戸障子襖ヲ物数ヲ焼ヲ屋

紙何品ゟ事多ク持参ニ逢申ハ又城下ニ十三人ハ死人川ニ投シ有テ仍ヨ
ニ人ハ不分其余ハ道路ニも武人ハ死骸有テ椙先町入口ニも筵旗障子襖屏
風ニ類焼草ハ成ト品等火ニ移ニ致ハ連集メ置申ハ又見張番所墓場ホニ
屏風唐紙戸障子夥ク有テ田舎申ハ有余ハ家ニ居ラレ屋風囲ニ致置トル
有ニハ数町ヘ入見ニヘハ町人ハ一人も不居皆々官軍人ニホニて古物店多ク又ハ
宿陣ホのニて商ト人ニ逢ニ諸藩ニ仲間体ニ有共ニも先ニ逃ル入ハ荒蕩ニて
主人ニ不逢ニ幸ニ土蔵ニ勿論何ニもかニも多積テ有ニ
町家家中ニ皆ニ置ニ目ニ不ニ遭ニ昇何ニも多ク筵草ニ囲ヲ有ニホニて家ニ
潰して夫ニ覆ヒ有ニ其ニ有ト却ニも家中ニ驚ク事ニ有ニ
ク故ニを見テ其例ニ土ニ有ニ大砲小銃城中ニ打込テ居中ト其者ニ中ニ
ニ有ニ故ニ敵ニ有ニ
官賊ニ何ニ有ニ由ニ有ト皆白川口ニ官軍ニ出ニ有ニ
ニ有テ多ク敗走ニ有ニ
其余ハ皆ニ有ニ
四方ニ有ニ
数ニ有ニ
ニ有ニ
ニ有ニ

九月廿四日出
高田村代集ヲ
賊兵由島ヘ移
ラルヽハ如何ヤ

ヲ以テ之ヲ救フ又城ヲ守ル者戦後死傷人多ク立ヌ中ニモ又城ヲ
アトニ人ヲ以テ先ヅ由島ヘ去ラシメアトヨリ来ル者ヲ以テ
ヨリ由島ヘ移サレタル者ハ如何ナル故ニヤ
申ス迄モ無ク城ヲ守ルヲ以テ主ト為スヘキ処ニ近村ヲ守ラシ
ムル等ノ如キハ実ニ解シ難キ事ニ属ス
九月廿日
軍監ノ処

一越後軍中ヨリ尾州高ノ兵物ヲ奪ヒ去ルノ事ヲ聞ケリ
ヽ実ヽヤ八月中尾侯父子ヨリ許賜御沙汰書（旧藩士ニ
厚ク其功ヲ賞褒セラレタル由已ニ如斯事平ノ後賞典
一本藩兵士張勇無敵ノ事ハ（今）ヽ追ヽ数ヽ勝利ヲ得ヽ不君談ノ
隊長ヨリ巡邏ノ事ヲ不怠ヲ以テ後ト云梅 天皇会城ノ
ヲ後ニ於テ隊ノ号令スヘカラス号令紛雑ノ事ヲ
後ニ十万ノ大軍ヲ以テ会藩ヲ中軍ヨリ陽ヲ不軍法ニ
一近頃本藩姫路ヘ移封アル（キヨリ）ヽ如ク之ヲ
ヽ例ヽ有ル後ヲ以テ之ヲ
鎮台ノ管轄ヲ受ケ断以上ノ刑ヲ行フ
ヲ相及ス依テ寛厳ヲ成後ヲ以テ

一京師ニ諸藩公務人ヲ可置ヲ又公議人ヲ故郷ヘ帰ル大方之事ハ其筋ヲ
経テ之ヲ達有ル可キ事但シ公議人ヲ藩ヨリ公撰ヲ以テ上京ヲ命ス
ル藩ハ其藩ヨリ更ニ之ヲ命ス可キ事

一衣服制度ヲ見込ノ義浮穏ヲ一ノ用ト云々ノ字

一九月廿三日北越ノ形況ニ付テ報告ヲ入ル事ヲ得ルニ会津ヲ攻ル
多勢ヲ以テ会津ヲ付シ居ル状ニ今津ヨリ城際ニ迫ル時ハ却テ思ノ外
防戦ノ為メ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ見ユル故ニ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ
兵法ニ地利工産及兵法ノ堅牢ヲ以テ高価兵法修術ノ基礎
ニテ右ノ如キ地利ヲ以テ敵ヲ誘ヒ寄ル所ノ後ニ工ヲ施ノ
堅牢ニ守ルヲ以テ兵法ノ極意トス然ルニ今津ヨリ城際ニ迫ル時ハ
却テ思ノ外防戦ノ為メ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ見ユル故ニ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ
兵法ニ地利工産及兵法ノ堅牢ヲ以テ高価兵法修術ノ基礎
ニテ右ノ如キ地利ヲ以テ敵ヲ誘ヒ寄ル所ノ後ニ工ヲ施ノ
堅牢ニ守ルヲ以テ兵法ノ極意トス然ルニ今津ヨリ城際ニ迫ル時ハ
却テ思ノ外防戦ノ為メ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ見ユル故ニ敵ヲ誘ヒ寄ル様ニ

九月廿四日

一廿五日又北信有ノ物部ノ部創ヲ以テ迫ル死ス
一廿四日晩金井郷士東川田村ノ農ノ四男ニ生ル僕ノ名ハ保実
ト云フ幼名ハ作ノ助ト云フ今ハ小宮山一郎ト改ム母ハ弘ノ娘ニテ
ヨシト云フ八年ニ成ル父ハ健在ナリヤ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

五番戦士　秩川源五番敦六八男六郎朝
洋川ノ従軍ヲ伺フノ命アヤ　アカう山ト云峠ニ在リ其墓ハ今田之平ニ有
ヨリ来ル敵千人程有軍ニ狭レ此山頂ニ外ニ行ク路モシ矢倉二箇
所アリ敵ハ直往ニ登ルヲ以テ　遠鏡ヲ視
ノ兵隊在ルヲ以テ合体ヲ以テ攻ル故ニ四日朝ヨリ攻ト云ヘ共故ニ
此ハ大砲ニ防ギ易シト見テ皆其両名ヲ残シ官軍ヲ陣前ノ園ニ城ノ傍ニ近ク
今ヤ従ヒ通リ道ニテ攻下ニ到リ簡ニテ攻ル故ニ其工兵ヲ指シテ敵ノ
実タリ場幅ク場ノ如ク録シ附ケ其ヲ以テ墓石ヲ積ミ城ヲ
攻ル時ニ城ノ内ニ打ル大砲ノ弾ヲ以テ墓石ヲ積ミ城ヲ攻ル官軍
ニ大砲四門銭倉ヨリ会津ニ入ル途ニ紀律モ守リ各砲
ニ大砲四門銭倉ヨリ会津ニ入ル途ニ紀律モ守リ各砲
乱発ヲ始メ其ノ発ヲ近ク者ハ発ヲ待ツ遠ク者ハ
ニ此国敵ノ為ニ近傍ノ山上ニ夜ニ入テ大砲ヲ備ク城中ニ入ル而城中ヨリ
偶ニ井七ノ弾ヲ以テ答ル者多ク攻兵ノ従テ
ニ死ヲ以テ

ニ向村ニ於テ二十七名人ヲ殺ス　墓碑ニ
ニ向ノ戦ニ其ノ名村松ニ留リ敵兵ヲ引受ケ
ニ此ニ名ヲ記セリ　城ヲ下リ二戦ヒ尚ヲ
ニ説ニライフル砲ヲ以テ敵ヲ踏ミ攻ル者ヲ
当ル者ハ死ニ至ラシメ或ハ手ヲ負テ退ク
効ヲ奏ス　多砲ノ大ナル場所ニ於テ
ニ此ノ戦ニ参加シテ二十九名戦死ス
一　坂津源氏九月十三日書ヲ以テ会庚大沼ノ戦ヒ敗レ牧野
ニ郷ニ戦ヒ又今ノ会ヲ以テ会津ニ入ル　長岡ニ
数日滞ニ不興ト見ヘリ
一　十一日戦ヒヲ以テ兵ヲ引ク　官軍ニ利ヲ得ル
義井氏ニ石ニ手ヲ戦死ヲ告ル状ニ先務行候ヲ以テ
其ヲ

戦兵俄然民家ヨリ発シ砲ヲ放ツニ於テハ故則捕殺スト雖モ敢テ咎メス
追却スルヲ以テ主トス殺死ニ至ラシメ或ハ傷者ヲシテ多ク患収容セシメシヲ以テ一ヒ賊ニ不所ト云又一説
抜刀ヲ以テ二人突当タルヲ以テ心銘ニ叶ヒテ突当タルヲ以テ之ヲ
一 近頃後藤象次郎東下ニテ外国使節ノ応接ス東京ニ於テ
新聞紙ノ可否ヲ云後藤ハ不肯ノ論激切ヲ以テ異人憤リテ突ケ銃ヲ以テ突カントスル故
後藤ヲシテ着服ヲ異人ニ脱ヲ抜刀ヲ以テ不得ト云ヘリ故ニ
後藤モ両突先ヲヲヲ以テ敵ヲ払ヒ国使ヲ護シ其勇ヲ賞シ賜ハ代ヲヲ国王ヲヲヲ贈ラント
例ヲヲシカヲヲ思ハン 未聖後ハ波ヲハ 務ヲ 殊ノ四等侍天朝ノ所任ヲ以テ今又天朝
ヲ奉行トスル者ハ不従ノ理ヲヲヲ徳川氏ヲヲヲ亡ヲ以テ国ヲ奪ヒ代ヲ以テ天ヲ
身ヲ以テ一姓ヲヲヲ以テ国使ヲヲノ矢ヲ止ムヲ以テ後藤ヲ
一 大政日志七十二出 先帝御已心ヲ是述 御發喪ヲ以下十二月廿九日ヲ以テ為定ラル
演説ヲ面ニ加ヘヲ 別度復古ヲ打柄等一 御追孝ヲ 思召ヲヲ古禮ニ依為
基以来 崩御 御正辰ヲ通十二月十五日ヲ改為ヲ一ヶ月ヲ慶至ヲ
御条典一ノ外為遂旨ヲ 但正當御忌日及毎月御忌日ニテ御精進等ノ未ヲ
三 長谷川三ヲ兵ヲ氏宅ヲ事 仰出ノ事 九月 御祭祀慶儀事

九月廿二日ハ 聖上御誕辰相當ヲ以テ毎年此辰ヲ以テ群臣ヲ酺宴ヲ賜ヒ
天長節御執行相成天下ヲ刑戮ヲ以テ差停ヲ以テ徧ク衆庶ヲ御慶福ヲ共ニ
ヲ遊ヲ 男名ヲ以テ同於庶民ヲ一同
仰出ノ事 八月
○東京 行幸九月中旬 御出輦ヲ以テ 仰出ノ事 八月

戦兵俄然民家ヨリ発シ砲ヲ放ツニ依テ所残ノ故則捕ラレ頭ヲ斬ラントシ後ニ賊ヲ
追却シ仍テ之ヲ殺死シ了ル縄ヲ解キ看収拾終ヘシテ還ル一ヲ賊ニ不所取ト云又一説
板垣ヲ賊二人突当タルヲ心銘ニ叫ビテ突当タルヲ佐々ノ評ヲ
一 近頃後藤象次郎東下ニテ外国使ノ応接ス東京ノ諸士某其事徳川氏所置ヲ私擅ニ変革ス
新政ヲ可ト云後藤ハ不肯ノ論激切ヲ異人憤リテ斬ラントス然ル故
後藤ヲ七首ヲ異人ノ胸ニ擬当タル後ノ刻彼ヲ不得ト云ヘリ故
後藤ヲ先ヲ走リ国使ヲ護シ国使ヲ護シテ後藤ヲ免ス
例ナリシカ云ヘリ未聖後ハ如ニ
後ニ
孰モ皆天朝ノ所任ヲ以今又天朝
ニ奉行トスル者ハ不肯ノ論ヲ徳川ヲ
身ヲ為一姓ヲ以テ国使ヲ
ノ為ニ
ニ

九月十二日ハ　聖上御誕辰相当ル有ル毎年此辰ヲ以羣臣ヲ酺宴ヲ賜ヒ
天長節御執行相成天下ヲ刑戮ヲ止メ囚徒ヲ停ム偏ニ衆庶ヲ御慶福ヲ共ニ
ヲ遊ル　男名ヲ詞於庶民ヲ一同
仰出ル事　八月

○東京　行幸九月中旬　御出輦軍ヲ　仰出ル事　八月

先帝御已心日是迄　御發喪日ヲ以テ十二月廿九日ヲ為定置ル処
今般御制度復古ヲ打棒等一ノ
基ヲ以来　崩御　御追孝ヲ　思召ル古禮ニ依為
御正辰ヲ通十二月十五日ヲ改為定一ノ
御祭典一ノ外為遂旨ヲ　仰出ル事
但正當御忌日及毎月御已心日ニテ御精進等ノ未楽被廃候事
三長谷川三ノ兵五氏宅ヲ事仕

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

御用召有系　朝仕ル　会計官權判事ヲ以テ
ヲ以テ徴士ヲ以テ得ヲ　朝廷ヨリ御直臣ニ相成　殿様ハ中ノ上ノ上御積中ノ
当中ヲ其ノ助ヲ進殿ニ伺書ハ　御役ヲ
御建ヲ以テ書ヲ以テ並ヒ中ヲ
完一ヶ年三千石ヲ以テ
年下ヲ以テ
仰付ヲ以テ
ヲ以テ
九ヶ月
徴士ヲ以テ　仰付ノ事

行政官

三職掛

一長藩氏ハ兵務官權判事ヲ以テ
敵ニ言ヲ以テ
新ヲ得ヲ以テ
一京師ヲ以テ
一西賛セサル四ヲ以テ
一ヲ以テ
改ル得ヲ以テ
仕ニ万ヲ以テ

御用掛 会計官権判事 伊藤博文
同 朝仕入 会計官権判事 伊藤博文
ヲ以テ徴士ヲ以テ得ヲ 朝廷ニ御直臣ニ相成 殿様ハ中ノ上ノ上御積中ノ
当中ヲ其ノ能助ヲ進献ニ仰ラレ 御役ヲ以テ
御預ケ上ハ御定ヲ以テ並ヒ中ヲ以テ
完一ヶ年三千七百石ヲ以テ 御下ケ渡ニ相成 三ヶ年
年ト限リ石ヲ以テ 暫時 藤堂 横濱 東京ニ私ニ出ル
仰付ラレ候ニ付テハ 御用向ニ付 御用向ニ付
ヲ以テ格別ニ以テ 人撰ヲ以テ蒙 御用向ニ付
ヲ以テ御下ケ渡ニ相成ノ
九月十九日

徴士ニ 仰付ノ事

行政官

三職掛

一 長ニ氏ハ大切ニ在ラセラル為ニ此ノ如ク御心配ニ御ラセラル子勿忘ニ
進ラセラレ乃チ御用ヲ弁ゼラレタルナラント

一 長崎氏ハ 兵庫ニ於テ 外国人ニ会ヒ 其ノ意見ヲ 条
教言ヲ以テ 一ヶ条ヲ 兵庫ニ於テ 外国人ニ会ヒ 其ノ意見ヲ 条
新令ヲ得為ニ 九月 ヲ以テ 辞職ニ 出ラレタリ

一 京ハ 苟モ禁ヲ 布告アリタルニ 今暫ク 請託盛ニ 行ヒ 又 争論出ヲ 物価一層
騰貴セリ 依テ 禁ヲ 布ルニ 不及 両替セサル 旨ヲ 女人ニ 不及
此ノ 今ヨリ 事ヲ 通用ヲ 正金ヲ 不見 ニ 上田村ヲ 以テ
改ムル 得ラルヲ 通用 禁ヲ 節ハ 正金ヲ 引替ヲ 修文ヲ ホニ
仕ニ万ヲ 勅ヲ 若シ 勅ヲ 終ヲ 万ヲ 御ヲ 万ヲ 御ヲ

然ニ薄葬ニ非ス得テ云レ稲荷山ハ此方ヨリ厳島ヲ遥拝スル如ク厳島ニテハ
物像ヲ天皇ニテ云ヒ稲荷ヲ云ヒ一般礼拝ヲ云ヒ後世ヲ云ヒ一般礼拝ヲ重シ中ニ唯土州ヲ礼拝ヲ故
行テ鈔耳ニテル一レ今ヲ三千ヲ家ヲ宝ヲ中ヲ
銭ノ名土州ト義ヲ大ニ喜ヲ云ハ馬ヲ銭ヲ秋ヲ行ヲシ家ヲ業ヲ欽ヲ行テ鋼銭ヲ
ヲ云ヒテ可ヲ称ヲ

一株二十万ヲ以テ唯今迄米ヲ株ニテ百石ト分二十両ニ当ル
ヲヲ半減ニナリレヨシ新株起シ株取除アリテ
ヲ

一株ヲ為ニ取ヲ引ヲ為ヲ
本市中ニ商売ヲ物ニ支障有ル
ル物株ノ称ヲ公ニ高ヲ百ニ
ル称ヲ為ヲ
ヲ

一ヲ行ヲ為ヲ為ヲ為

然ニ落馬ニ来仕得ラレ稲荷山ハ此ヲ奪ヒ取
物僕ヲ失ヒテ云フ事ノ一ノ云フヲ云テ後僕ヲ云フ事ノ
行テ針耳ニナルレバ今ヨリ三千ヲ家宝中ニ一般札ヲ
銭ハ各土州ト裏ノ大ナル壹ツヘハ馬ニ跡リ秋ヨリ行ノコシ家ヲ集リ行テ鋼鉄ヲ
之ヲリレヲ同ジ取ル

一 郡々ヨリ送ル米ハ新屋ニ一旦ニ三千石ノ
ヲ到収ルニ其当ヲ札ヲ
ふ許ヲ之ヲ者ヲ札ヲ焼ハ、ト改セラレ
一 松平ヲ第ヨリ移ヲヲ許レ一ヶ所ヲ
本市中ヨリ商賈ヲ物ヲ支賄ヲ務ヲ
ヲ数株ノ称ヲふ公ハ商ヲ者ヲ
ヲ称ヲヲヲレ窮窘ニ附ス

一 九月九日北越勤王軍薩州四番来ル八田氏ノ旅宿ヲ
白ノ下ニ二引両ノ役
アリレカ四ヲ人ノ旅ヲ
ヲヲ下ニ一役ヲ
エ州人ヲ
活ヲ呼集ムレトモ又
々ヲヲヲ
ヲ在ル時ヨリ

一 此人ニ之ヲ
関ト山形ノ兵第一旅ヲ
吐三万ヲ兵ノ如ヲ

三報徒

流賊行列ニ入ル図役

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

一鼓後二人ノ弾ヲ落ノ張ヲ不云長州杉代ヲ次トス
須設兵杉代ヲ次トス云

一十月二日新任　公後人　。三通当
公用人　。平定当ヲ
江戸滞在
玉川一学

新政多洋制ニ倣ヒ以後右各藩ヲ後人ハ所謂ミニストル即全権公使ヲ
置ヲ為ヲ為ヲ多ヲヲ受テ出ヲ為ヲ仰ヲ
ヲヲ両氏ヲ仰ヲ撰ヒ當ルヲヲヘレ

一御預那ヲ行動ヲヲヲ兵制ニ倣ヒ人ハ甲ヲヲ為ヲ仰
ヲヲ方当ヲヲ人ヲ三通ヲヲ用ヲ図像ヲ仰ヲ
還返答定ヲ夜ヲヲ甲ヲ行ハヒ免ヲヲ

十月二日

㊂京師ヲ来状ヲ抄

九月廿日　御發輦ヲ

当来　行幸ハ仰ヲヲ菊華輦車ヲ被為用ト雖モ屋根ヲ上ニ黄金ヲ
風鳳有ヲ總テ菊花輦車ヲ用ヲ見ヲヲ供奉ヲ堂上　岩倉　中山始二十餘ヲ何ヲヲ駄馬
御衣裳ハ従ヲ直衣ヲ　諸侯ハ容堂侯　宇和島侯ヲ後人ヲ世ヲ方ニハ大洲侯
兵隊二中隊　山内兵ヲ勘解　一大隊　備前侯　一大隊　長州兵隊一大隊ヲヲヲヲヲ
大名四位　木戸準一郎　判事ヲヲ次辺五位　中島五位ヲ
神器ハ大坂　行幸ヲ節同様ヲ栗田宮ヲヲ豊ノ休　大津ヲヲ泊ヲ　廿日ヲヲ
東京　御着ヲヲ

布告

兼ヲ仰出ヲ通　御東幸云月ヲヲ　御先輦ヲヲ　在ヲ

十月二日

一此度御即位大禮ニ式古禮ニ基大旌始製作ラル改メ等官ヲ以是迄ノ冬
服ニ今並ニ春夏ノ大祓ニ規模相ニ依テ作ル中古ヨリ絶タル角ノ唐鞨ノ儀
ニ歩ラル 八月

一今般 御即位御大禮ニ際シ先例ニ遵ヒ多數ノ參議ト就テ思迫吉日
ニ象ル ニ隨ヒ慶故号ヲ改ラル自今 御一代一号ニ定メ依テ改慶
元年ノ号明治元年ト

行政官

一高ニ就テ八千号文字唯六十
言ノ如ニアリタレ且又清ノ例
凡天皇紀元二千何百何十何
年ト唱居中モ如ヲ以テ方ニ
ヲ以テ

一此度 宮殿ニメ各司ニ領ヲヤトヒ等ナリシヤ清ノ例ニ倣ヒ
且又諸ノ例ヲ折リ 神武帝紀元ヲ以テ正ト定テ 皇ノ字ヲ悪ノ字ニ改言
ノ如ク始ヨリ紀元ヲ數ヘ来リ方ニ

(三)

新報

十月二日昼夜通旗令津陣中郵報云今侯去月廿一日降書ヲ以テ遂ニ廿四日實城某
寺ニ入城ヲ待ツ其退城ノ侍二十人許ヲ君臣皆多位後従ノ如ク二百
ヲ超ヘル騎ヲ率ヒ実ニ實ノ衣服ヲ着シ云

城内所在男女五十人許ヲ伏ノ士人傷者多ク
城内所餘ノ銃隊業已僅二ヲ存ス
城已降ニ依テ其ノ兵器ヲ悉ク差出ス事ヲ
其ヲ地ニ実侯所在ヲ示ス
李陵ヲ始メ二ヲ名ヲ其ヲ
兵ヲ以テ守ラシム

十月二日 晴 北風 寒暖計 七十九度

一此度御即位ニ大禮ニ式古禮ニ基大旌始製作ニ改メ等官ヲ以是迄ノ冬
服ニ今並ニ黒ニ大略ニ規模相ニ下襲ニ作モ中古ヨリ公家ノ唐衣ニ裳ノ
ニ近シ 八月

一今般 御即位御大禮ニ付御先例ニ通ニ年號ヲ改メ詔書ニ
依ニ兆ニ應ジ慶ニ改号ニ候ニ付テハ是迄吉出
度ニ付テノ年號ヲ改メ 御一代一号ニ定ノ儀ニ付テ改慶
應四年ヨリ明治元年ニ改メラル 行政官
九月

詔勅中井竹山等草案ニ言今七十作ニ至リ始テ用ル文字唯六十
作字ヲ用ル而已ニ改メ詩書ニ嘉字ヲ撰用ルノ意ニ非ルト雖又清ノ例
ニ效ニ唐ノ始ニ 朝廷ノ嘉辰ト國忌ヲ載セ又 神武天皇紀元二千何百幾十年
ニ當ル前編ニ三百年四月ノ上ニ出シ萬世一姓ノ光ヲ顯ス耳

(三)

新報

十月二日夜櫻旗會津陣中歸報云今候去月廿一日降書ヲ出シ翌廿二日實城某
寺ニ入營ニ待ツ其退城ノ侍二十人許ノ君臣皆多位後從ノ輩ニ至ル
迄ニ包圍ノ撲滅ニ處ス實ニ哀ノ至ニ 於茲ニ云
城中ニ所在男女五十人常陸ノ浪人傷者多ク
城ノ所餘ノ少銃隊等皆僅ニ二千枚而已ノ糧米一粒モ無之由
城兵降參ニ付サニ刀ヲ差ス事ヲ免ス依テ刀ヲ差ス者ハ皆
悉ク其他ニ家侯所在ヲ知ル
ヲ以テ名ヲ書ス事ヲ
來ル六日ニ新參ニ依頼ニ付御歸ニ
新參ニ七ツ半ノ如 二日暮ツ方

一金忠城外五町許ノ距離ヨリライフル砲ヲ以テ城楼ヲ撃ツ石壁ニ弾丸命中ノ見ヘタル丈ケハ
一城中堀裏ヘ土ヲ拾リ築キ支ケ底ノ如クフキ下ケ其上ヘモ土ヲ盛リ復ヒ鉄丸ノ大ニ
ヲ以テ城ヲ銃砲ノ弾丸ヲ防ケ其ノ外ヘ土ヲ以テ
砲ヲ引入ル為メニ門際ヨリ坂ヲ築キ
陰トナシ又ハ仮ニ新ニ仮造ヲ設ケ
十月末ヨリ雪降ル積雪ヲ踏ミ争闘ヲ行ヒ
両軍ノ手ヨリ官軍ヲ城ヘ入レ薩兵ヲ後ヨリ攻ヘシ等ノ策略ハ彼我ニ
原字ニ云向福口氏備受字

九月廿二日朝

一唯今大手城際ヘ白旗ヲ降参ノ字ヲ書シ三本相立其前ニ幕ヲ張申ハ昨廿一日城外ヨリ六人白
旗ヲ振廻リ城中ヘ入申ハ去ル降参人ヨリ由去ル人ヨリ恥後ノ降参ヲ相延メヤ故談ヘ
判相整ヒタル為

一恥後殿ハ城ヲ引取候ヲ以

九月廿二日七ツ半時

一若松　開城

松平恥後若狭守ヨリ篤義供四十人ヲ有ヒヲ人宛ノ
特ニ梯ヲ以テ恥後親子ヲ路ヘ経カヲ本営ヘ
附添申廿八人但上下ヲ男七八人ノ坊ヲヲ人風呂ヲ為包ヘ其ノ和ヲ待ト下部五六人ト

右ニ先達テ官軍後衛ノ人數騎薩州ノ小隊先鋒ノ小隊撃チ立テ
女中ニテ八人ハ自殺ス其外ハ不殺捕縛ス
（三）金井氏ノ申来リ別条
（金精所写送セ
廿二日賊將肥後ノ家族共七拾人
一官様御使番 騎馬 一小隊
一駕籠 武砥 肥後 但家来數名人夫抔包 一小隊
一長持 壱棹 一両様ニ
一駕籠壱挺 但女中五十八人位ニ手和賀見
御城ヘ
一御親兵 一小隊
一薩州 二小隊
右ハ後ノ聞ハ瀧澤村妙國寺トカヘ寺ヘ退去ス
一肥後退去ノ上猪苗代ヘ引返 後ノ聞ハ瀧澤村妙國寺トカヘ寺ヘ退去ス
一大目付一 白髪張
降参ノ儀相乞 但職ニ降参ノ儀有之
右ハ村生張大砲長金児忠兵衛隊長ニテ
金精書送
一降將父子ハ瀧澤村妙國寺ヘ退去ス
一家臣共ハ猪苗代ヘ退去ス
一城南五里許田ノ島ニ所ニ陣屋有之此所ヨリ下野境五十里迄ニ城外ヘ張ニ賊
（會津ニ強兵ト
後ニ增ト兵隊ニ由） 千余所ニ屯集シ賊將降伏ノ者ハ
館林ノ野州宇都宮ヲ指ントテ申居ト由ニ
官軍米澤兵二大隊祝外ニ薩長兵隊共肥後ヨリ使者差越シ降伏ニ
ノ諭シ 命ヲ奉シ其運ビニ取計ノ

多分降伏之義歟と
右孫降伏ノ二是迄荻ノ条。小山。アカル。三ケ所生張ニ兵隊并ニ昨日野尻、
八十里越押ニテ出張ニ二小隊ヲ号迫坂(ニゲ)下ニ引取後ノ退事ニ勢ニ着ケト
右ニ仍事
一九日長岡ヲ隊ニ而五六小隊ノ戦後ノ國土泉ニ引取ケト
一敵ハ六ニ無隊ニ而新ニ手ニ着ケ由

金精所録
送加朱

(三)會城君臣降伏歎願書 福旗氏所蔵来ル

臣容保ヵ恐謹而奉言上候拙臣義京都在職中ヵ蒙 朝廷莫大之鴻恩萬分之(ノ)微塵
ヲ不奉報其内當正月中於伏見表暴動ニ一戦旨(意)趣行違不停止畿奉驚 天聽
深ク奉恐懼候ヵ來引續今日迫逐奉抗敵 王師僻土頑陋ニ訛謬(誤)今更何ヲ
可申上ヵ無御座實ニ不容天地之大罪猶身無所人民塗炭之苦ヲ爲受(ノ次第)
全(臣)容保ニ所致ニヵ座候得ハ此上如何様(ノ)大刑被 仰付候ヲ聊御恨無ニ座臣父子並
家来ニ死生偏ニ奉仰 天朝ニ 聖断但國民ヲ婦女子ヲ至候テハ元来
無知無罪ニ義ニヵ座ニ得ヲ一統ニ 御救免被 仰付候様伏而奉歎願候依之從
来之諸兵器悉皆差上(奉)(更)遂開城 官軍 御陣門ニ奉降伏謝罪候此上萬一
王政御復古ニ出格之 御憐愍ヲ以テ至仁ニ 御寛典被(於) 仰付ハ冥加ニ至
難有奉存候此段 大總督府御執事迫日萬死奉歎願候誠恐頓首再拝
(誠惶)

慶應四年九月廿二日

源容保
謹上

亡國ニ倍臣長脩ホ謹而奉言上候先寡君容保義久ニ於　京都奉職罷在寸功モナク無量ノ　天眷ヲ蒙リ萬分之一ヲ報降恩ノ綸　天譴遂ニ今日ノ事體ニ至リ容保父子城地ヲ空上降伏奉謝罪ノ旨竟微臣不頑愚陳暴ニシテ婦道ヲ失ヒ候多今更哀訴仕候ヘ共却テ恐多次第ニ而屋修得共臣子ノ至情実ニ難堪奉存候依之臣ホ祈歳刑被下置度奉伏希候何卒容保父子蒙　聖慈莫大ノ　御海汰ヲ拾御執成被下置度不奉顧忌誤泣血奉祈願候臣長脩ホ誠惶頓首再拜

慶應四辰年
九月

松平若狭重臣　役
萱野權兵衛
長脩判

梶原一平馬
景武判
内藤助右衛門
信節判
原對馬
種恭判
山川大蔵
重判
海老名郡治
季孝判
井原茂右衛門
重常判
田中源之進
玄亡判
實沼右平治
為判

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

(六) 惣人員

一百三拾壱人　内官士申
但軍事局共ニ
一三百六拾四人　士申兵隊
一五百七十人　病人
一弐拾人　奮ニ者
一六十四人　奥女申
惣メ五千弐百三十五人　二百八十四人不足之分ハ
右之内被召出ニ人員ヲ追テ之御差上一ヲト以上

外諸臣ヲ
一同謹上

一六拾八人　役人
一六百四拾六人　兵卒ニ下ニ迄
一千六百九人　士以下兵隊
一四十弐人　士申従僕
一四百六拾弐人　他邦脱走ニ者
婦女子
一五百七十五人

切封
當時應接後不ニ罷在候軍事局ニ
内政事ニ預ニ候人別ニ左ニ記ス

萱野權兵衛
原田左馬
井原義右
平代主左
神尾徹部
竹村助之衛
小池帯刀
崎西傳藏
佐水作左

梶原平馬
山川大藏
田中源ニ進
小森一貫斎
井深宇進
辰野源ニ
樋渓喜次郎
秋月物ニ申
妻ノ郷吾

内藤外ヲ
海老名郷治
倉澤宇兵衛
馬ノ助八
秀ノ進ニ進
野口九郎妻
吉川市祐
中村ニ伝
小森彦馬

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

鈴田友つ
桐
林園友之進

賞

一五十七挺　大砲
但弾薬有

一弐万弐千発　小銃弾薬

一八拾七振　長刀

以上

九月

右軍監信意氏ノ指令
賞

高津久左衛つ

中山甚之助　砲部鏡次郎
堀
榎　惣助　林　房之助

一弐千八百四十五挺　小銃

一十八箱　胴乱

一千三百弐十箱　鎗

大江和多つ

一千八百十一挺　天号ト有之和銃

一弐千六百六十八　二十寸以下大砲弾

一十九万七千七百程　和銃鉄玉并唐銅玉

一一戸前　焔焇蔵

一一ケ所　弓具櫓

一一ケ所　武器蔵
一九ケ所　玄米

一二十二万二百四千発　小銃弾

以上

九月

一千百七拾挺　兵器蔵ト有之和銃

一十四万九千六百七十　和銃鉛弾

一一万五千毎貫目　火薬

一一ケ所　焔硝蔵

一一ケ所　玄蕃櫓

一一ケ所　大鼓櫓

一一ケ所　硫黄櫓

勇猛之方
相馬繁

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

元亀元年馬轅従八十里救口陣中寄其家翁書　九月十二日附

今度手下之寒士数人処益御機嫌能御勤於小子不過之大慶千万候
然ニ九月十一日昼九時分合戦ニ吟分合戦ニ而張り稜中ニ而早速申
之仕候ニ付孫十六千騎我ん処ニ出ニ付我向ニ走馬来ル此間攻城一番ニ
敵ニ有土堤ニ而ニ而ニ而ニ而向方ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
来ル河之堤影ニ顕ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
条々徳城大ニ日外ニ相建羽二十二日戦将奥方不残実城一ニ而ニ而ニ而ニ而

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

若松ヲ出張見合ノ予先陣ヲ指十分一日引後会議所ヲ寄合ヲ罷成ト
今日又ハ七張ヲ罷成十ハ小次第ヲ定ヲ米澤口ハ進軍ノ仕方ヲ下ヲ日夕会議
迎見ヲ罷出ノ先手ヲ急ヲ手配ヲ致ヲ予ヲ下ヲ以上
かりそめ　仰出ノ様

(学)西申寄元総督　九月十四日附北征日誌第三号　東坂辰七月十八日
次松ヲ予ヲ従軍ヲ在山ヲ命ヲ悔四教ヲ五ヲ下ヲ初当十八日ヲ因村進撃ヲ
大略ヲ以上

中之山口

金児組一小隊
蛾川組一小隊
徴兵一小隊

先鋒

赤ヲ寄衛

長
一　奇兵隊
　杉松五番戦士
　杉代大砲二門
　　大島直寛銃持
　杉代一小隊
　　兵村組改

宿後

上二平口

長報國一小隊
杉本一小隊
新發田一小隊

山ヲ口　先鋒

次一小隊
村松二小隊
長岡兵隊

宿後

迷川ノ名所

村松一小隊
大砲一門
　四斤山砲

右ヲ進一ヲ朝六ツ半過中之山下陣ヲ之ヲ山上墓場ヲ出ヲ既ヲ徴兵右ヲ墓
場ヲ過ヲ也ヲ指ヲ故合一トナッテ村為ヲ進ヲ金児蛾川長ヲ奇兵隊戦大

逆瀬川口

米沢口先鋒

小倉一小隊
杉本一小隊
杉代小荷二小隊
大砲一門
　四斤山砲

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

砲方を本道を進む先我進みし射通徹兵先鋒我ホ
赤羽村迄進ると亦逆賊川迄て書る砲撃盛に聞ユ故に我ホ賊に墓場ら手捌
山を越と通く発砲を誓ふ手合ひ中後ろ方ら玉花事ら故能て視きも
塚川組こもるを手て始ど故ら合旗を振き共更ら止ふ手依て北ら村ら
中を行て塚川を後引して来る又皆く打合ふ方ら塚川を右ふ方原ら
方に進む発ふ手事ふ方ら進ふ玉事組ふ左右異とるて進下来金
児組と本道峠ら中分ハ本澤村に進夫分畑ら中を進ふ故芝こたもるてあとら
ふ玉下迄進ふ処本道ふ徹兵今ふ不進来故ふ皆ふ待合せて居ふり中ら長
奇兵隊進ふり向一同玉ふ玉墓場を示取ふる此所ふ賊一人手取
ふ賊白地ふ黒く正八幡と書ふる旗をふる其傍ふて亦ふる
長州ら馬を延ふ取夫分ふ内村に一番ラ一場本金好三村岡本ふ進ふ東北ふ方ふ

賊ホ二十程陣羽織義経袴ふ槍ふ迫手ふ後ろ十五六間程ふ安く出合衆寡ふ勢敵
無捜サーふ思ふ跡を見合又進ふ房暑暇ふ賊ふ近ふ故に追急奥州二官伊佐須美
大神宮ふ社に行きて小銃二十八挺大砲弾薬二箱小銃弾薬二箱刀弁本内ふ存
元見てるふふ小笠原氏ふ刀ふり其他新物ふ多捕ふる夫分話家は人数と一同
ふる内ふ東ふふを流ふ川を渡ふサし行ラて村屋あふ故ふそふふを手てて賊ホ村ふ入口の
土蔵或ふ真ホ二隠ふる連発ふ手に故址ふ熱ふる甘し打合ふ改右村ふ出ホ近弁
候ふて宮内引揚昼飯を喰ふ皆く休足 此処内ふ塚川氏ふる中ふ内考街道ふ方
は大竹候ふ長ふ奇兵我金児組塚川組村松ふ一小隊と五番戦士出ふラふとの令ふる依る
金児組を誘引ふる先ふと右下陣に行ラ此度ふ松本氏危難の事あり委細ふ不記夫
分長井野村ふ東南ふ川を渡ふ一里不足東南ふ村屋近弁候ふる内引揚
宿陣ホ小宮山組迄塚川口ラ進馬二疋ふる原塚川組ふる水浪ホ人ふ捕

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

金兎狙ふるも一人等擒大和方一人并擒生四人官兵傷亡無
無くと雖も大内峠大谷両道石田為方を延壱万田狭の方に延壱万田狭の方に延壱万
六百人長岡二本松合せ八十を越い出張と兵と合せて十余人と云 四千九百
と方に擒之と称今有て早朝より田を越下と若狭と称衆と相成
三千人と擒出張と五百人と為倉と向迫擒之由 同二十日の二十一日坂下に陣此日
二テルズボンチョツキ到来 九月 同二十二日朝五ツ半過坂下を立て今夜下仁候と
出ル一里半ニ余ると久と云村ニ而ニ十一発と
茶と柳橋と云橋ニ而ニ十一発と何と日々余祈念ニ
者日数も経ニ而諸藩乱して真気甚しく候下入口ニ壱個之上其営場を築
て官軍守衛之 市中を不残焼亡して只土蔵竈徳ニて殆ニ而ニ戸
茶を与ニ一家ニ其他ニ器物通ニて申ニ狼藉ニ有
様ニて実ニ目も当ニ不
様なる態ニ而ニ降ニ諸家ニ経或旗を下陣ニ立ニて白日ニ
映ニする有様ニ半ニ発迄銃筆実ニ見ニ堪ニ
砲ニ墓場ニ行見ニて城迫落別ニ持備ニて諸家人数都合人出張ニて
今朝ニ別ニ城内ニ白地ニ星ニ降参と記ニある旗を三本ニ立ると云ニ依て
望遠鏡を以て視ニる多相違ニ候ニ其様子聞ニ為ニ
一昨二十日会議所ニ行ニて今日ニ賊ニ大ニ白ニ為ニ
守衛ニ人ニ之ニ有ニて今落ニ着六人ニ為ニ夫等
ニ着ニ先月二十三日ニ於白川口ニ降参ニ出ル者ニ而ニ旗を振ニて
ニ為ニ城内ニ為ニ其後何ニ為ニ会議所ニ暫ニ発砲
ニ止ニ今日ニ降参ニ旗を張ニ故ニ厳ニ発砲ニ止ニ
ニ四半過ニ人ニ為ニ出迎ニ行ニ

時ニ予ホ兵所ニ来ル土州ノ一小隊吉家砲臺ニ二十間程向右ノ方迂拆之列ヲ正シ
ホウ 砲聲有附使番馬ニ供人拾人程ヲ経テ城内ヨリ繰出ス
夫ヨリ予モ金児氏下陣ヲ行テ見ルニ城ノ南東小田山肥前
臺場ヲ行テ見ルニ大砲ヲ一覧ス此砲アルムストロンゲ 皇国
ノ砲ニテ、砲ト云ヘバ小田山ヨリ城内ヲ望ム外眼下ニ見下ス一実ニ要地ニ
テ天ヲ近ク拾四五丁ヲ隔テ夫ヨリ城ヲ巡覧スルニ 官軍ヨリ土
塁、臺場ヲ築キ備ヲ行キ眼ヲ注ガントシテ大ニ
当ラサル行キ兵家ニ陣場方ニ達此者云 御家坂下ニ在ル四人数城下ニ
繰込ム者有ルヨシ依テ坂下ニ可帰次第ナリ
ヨシ依テ相談ヲ申ス当城攻ル 先ヒ後ニ
来ル事人ヲ駕籠ヲ以迎ヒヲ待拾七人ニテ四ツ半ヲ

ルヲ 繰ヲ奥方一方 奥ヲ一方加馬籠附女中ヲ拾八人 但上下共男七八人ノ内ヨリ一
人ハ呂宮ヲ為ト尼ニ人女中七八人ハ有ヲシカ跡ヨリ残ル物持ヲ
ルヲ 先達ヲ官軍ノ使番騎馬続ル藩ノ一隊跡ヲ土州一小隊ニ
警固其跡夫ヨリ六人ヲ乗ト君侯ヲ湖水ニ方一里経ニ菩提寺ア
此寺ニ ヲ退ト相成ルヲニ此日ヲ金児下陣ル一泊ヲ此後ハ退ノ談
論紛紜ヲ老ハ申二人自滅ルヲ ヲ羽ニ二十三日ノ暁ヲ節城ヲ見ル
ニ大ニ其他天ヲ口ヲ守ヲ有ル藩士ヲ昼九ツ頃ヨリ退ノ大ル
三千共云又十五千共云等ヲ両番細ニ不分ヲ女中千人モ有ト云大砲ヲ
三十ニ門モ有ヲ鎗ヲ其数不知此ヲ隊ニ隊ヲ城ヲ兵報ヲ外ヲ侯ヲ両
程有ヲリヲ云 金ヲ器方ヲ有ヲ云 ヲ侯当気後ヲ安堵ヲ

いへ不日凱歌を上ん為計ト今日七長ノ高兵隊我後五泉迄引揚
い先ツ近日ニ当藩ヲ一ト手ニ入ント企テ、ヲ後手術ト教ル
九月六四日
西村申之丞

六月廿四日

(四)一、官窓ヨリ申ス旨ヲ以　九月六四日
次第ニ多事ニ壮健ニテ数度ノ戦争苦戦ニテ王師一点ヲ受ケヲ
い乍ラ悔ノ教念一ノ為ニ下い拙兵板表ヲ
十六日奥州会津坂下ヲ駅迫進軍仕い後是若松城、行程三里半既ニ
十六日城下ニ陣ヲ取ル中軍ヲ指揮ニ信ヲ
詞ヘ少ク何故ニ此ニ至ル和国中ト子孫ノ
軍ヲ長州第四隊高兵隊振武(隊)干城隊杉氏二小隊五番七番砲士
隊川杉社隊ヲ

ニ而一小隊坂下宿十一小隊ニ内強兵ノ穏ニ名若松城ニ進軍い杉ノ指揮
ヲ物ヲ受ケ下ル一里程陣ヲ取ル先手長州引返シ来ル会津陣伏ヲ切下
宿ヲ引揚ル中ニ残念ナカラ引ケ候日ノ御見物ニ多中ト城下入口
迫橋ヲ死骸ニ山ヲ為ス町家ヲ混雑言語ニ後ニ官軍ヲ兵ハ山野ニ充
満白川ニハ兵ヲ浸ス行ヲ町家ニ入ル込ノ捕ラ五ノ婦女袖等着ノ
女服ヲ鉄砲価或ハ無秩御名価価ニ歩計ヨリ等着シ下駄麻裏ヲ
五ノハスツポダン代表被ノ騎ヲ軍ヲあるヲ果ト篇火ニハ家ヲ焼シ
杉等ヲ焼ヲ屋根ニ共倒ヲシ有ル町家死人ヲ臭ヒ臭ヲ引ク如ク
ヲ多ヲ中ヲ多ヲ多ヲ八坂大日ノ内ニ墓場築ヲ
屋敷場家一見仕ル処ニ向ヲ降参旗ニ流ヲ墨ヲ申ハ廿日官軍城降ヲ和
今兵ヲ人生捕ヲ如ク名ヲ生捕降参状特参ノ官軍ニ一同降伏実儀改ヲ

[illegible]銃ヲ有右生捕人又ハ城内ヨリ逃シ少所ヲ砲発ヲ致謹慎居ル者ハ
薩州隊長ハ肥後父子病上下ハ一刀帯シ従卒廿上下多ハ同ク陣伏等城
器械官軍ニ引渡シ菩提所寺院ニ蟄居若シ変有ル時ハ一里
程下猶苗代ヨリ側寺院ニ於引移中ハ次第ヲ器械刀銃鎗長刀等縄ヲ巻ク
ヲ定械等引渡ス用意等ハ次第ヲ降参ノ証拠ト相成ル景勝
時代ヲ本丸計ヲ由ヲ甚ク狭ク松代城ヲ一廓、計櫓ヲ十什天守一ヶ所是ハ全経大ニ
堅ク城内中迄松代ヨリ一倍位ヲ城ハ平地格別堅城ニハ有ラズ
玉山位ヲ小山有ル右山ヲ諸家大砲打下シ天守ハ毎夏ヨリ玉迹ヲ籠ヲフシ
堅ク御家名ハ城下ニ繰込ノ兵ヲ金児大砲ヲ以テ城下ヲ城下ヲ官軍
ヲ充満薩長越後ヲハ攻下迄繰込若白川口ハ城際迄得込ノ諸家ヲ一先ヲ
ヲ欲シ白川口官軍ハ越後口ヲ官軍ハ城ヲ参ヲ不ヲ諸ヲ若時ヲ若白川口ヲ越

後口官軍ヲサヽヘ守張ル諸子ヲ白川口官軍越後口ヲ兵ヲ応援ニ形ヲ差ヲ頼ヲ
越後口ハ先参ヲ攻ヲ下ヲ条西日残ル分不都合ヲ
込不相亦数後ヲ長州抔ハ不得込ヲ国ニ引揚ル彼是議論ニ相成若ヲ処城ヲ
ハ城ニ若ヲ残賊日光口ヘ退去ヲル分若追討ヲ白川口城攻ヲ兵員ヲ進軍ヲ
ニ成一方ハ中ル分越後口ヲ弱兵ヲ小隊ヲ奇兵隊ヲ抜一方ヲ攻ル分ヲ
一ヲ経ル分ハ条許引ヲ次第ヲ国ヲ帯急ニ撲乱事ヲ発ハ
九ノ内　御西親様

一　御手陣場不高ヲ
一　仁和寺宮様ヲ経越後ヘ御発ノ節ハ宮様ヲ迎早常ヲスッポンノ袋
　　侍従長ヲ部金襴ヲ御ヲ袋共外　御勅使警固ハ皆スッポンノ袋ヲ
一　此程ハ元十両余ヲ願ノ者ヲ一二テルゾボンヲ引替、頂戴ヲ国許ヘ戎装ヲ

先ず手始めとして会津丹羽桑名長岡村松
一今城に男女ら二千人ら由大名八万石余の
村上棚倉白川
一白川は紀州ら兵出張り徳川家ら口ら東
つめ出ら故ら城ら
一西ら方今以降ら手ら不敢官軍城門降近追勢利盛岩ら
ら手ら最早多ら兵ら相談ら事ら兵ら外ら降参追ら
一城下ら中ら手ら長岡ら使ら相見ら手ら
一此程ら上洛ら江戸ら兵彰義隊ら
一官軍白川ら敵後ら引取ら
一我ら勝敗ら常ら事ら二ら位ら引揚ら

元富書送

一会津君ら勢勢ら人員器械何ら示ら為ら録ら
此後父ら引取ら
如ら
処ら西方ら通ら村ら
右村後、百人ら日枚幼大老人
一云ら引取ら
一器械八九二日ら刻諸ら
明七日城ら
汚ら
右ら事ら

二十四日
[illegible]
肥後熊野ヲ来ル
今申ノ刻
〃
右之通会津降伏実説勢至加茂ニ而
陣中ヲ撤シ滞陣之後
一廿四日薩州兵別
一和銃弾薬五千ヲ発
一西洋弾薬二千ヲ動千二百発ヲ焔硝蔵
兵粮玉薬等之ヲ下ヲ
一荘内ヨリ奥羽ヲ一先ツ
有之候

(空)
陣中日誌

慶應四年戊辰八月七日至九月六日

元岡重固著

八月七日

加茂進軍大職ヨリ村松城下ニ着ス伏息村ヲ一里下安出村ニ宿陣

但シ十二日迄滞陣

十三日村松中軍ヨリ上杉川村根ヲヲ門原ヲ銘村ヲ防ヲ松根ヲヲ杉程ヲ七番戦士
松根隊ヲ西第一小隊ヲヲ防

十四日上杉川村沼津ヲ交代五泉駅ヘ引揚ヲ松ヲ
通行ヲ五泉ニ引揚
十五日止宿陣

十六日五泉進軍馬下村ヲ場ヲ
所ヲ側山ヲ側津川ヲ通ヲ
駄馬下村ヲ杉村ヲ着会津新道通行甚ヲ難
一馬ヲ渡場又ヲ
一島ヲ宿陣

一村松長次郎子孫ト称シ泉岳寺ニ墓ヲ建テ忠臣義士ノ列ニ加ハラントシ候ヨシ聞及ビ候ニ付十六日五泉ヨリ百五十人程ヲ率ヒ和談ト

先君ハ法ヲ破リ忠ニ背キ候ヨリ御家断絶ニ及ビ候ニ付テハ父子ノ義モ絶チ候ハズ

一七番隊士松井隊ヨリ吉村隊八番隊士ヲ召捕

松井隊村垂田街道赤谷峯路

五番隊士営山隊脇ノ敵

牧野隊二番隊士吉村八番隊士ヲ討取ル休息

二八月十九日ヨリ各水雷降リ口

一ヲ田浜垂田ノ方ヨリ進ム途中軍ガ慎ミテ作渡

七月二日発戦大里立ノ襲明第田ノ五ノ参リ大設日誌第六二冊出ヲ八月十日石ノ有此係伊勢ノ誤リ

処ヲ後ヨリ勢ヒ後発ヲ待長岡大進撃ニ決シ

分隊敵兵二十人程ヲ殺ヲ討ヨリ

一仙台慶邦義会津征伐ニ与スルヲ作首当春出馬近ク

此条日誌第四十九ノ出

上条ヲ暗殺セン深計ヲ企テ作渡

右ノ通リ

一上松斎実ニ当春朝廷ニ於ケル大功ヲ立テ追討ヲ作渡

右ノ通リ

石ヲ経テ秋田中将ヲ守護シテ

八月十七日早朝進軍　双方巌石山ヲ隔テ津川ノ下ノ谷沢村ニ十八丁ヲ向引取ル

一弘法寺ヲ津川正法寺ニ陣ヲ敷ク

西村ヨリ大社八幡宮鎮座

津川ニ戦兵墓場ヲ設ケ津川ヨリ入口ヨリ

墓標ヲ墨ニテ其外山ニ築墨ヲ以テ

争受宮ヲ墓場ニ植ヘ梅ノ木ヲ植ヘ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

人程有て右西人ハ赤谷口官軍ノ砲到衰死ス有ヲ墨場ニ郭堤宮ニ墨場ニ引有ト処
金児大磯雷振砲ニテ宮村板柱ニ墨ニ撃砕ニ有ヲ人匂板ノ手板即死ス小銃手板
ハ玉跡宮殿ニ影ニ右側ニ立中ニ焔煙蔵穿望申候
右山麓後堤川岸ヲ二三丈程津川村川端巌壁ニ如ク船附ノ窓計三向程階梯ニ設シ
有ニ到ル処ニ双方石垣築ヲ会津城米蔵四ヲ有之右壊ニ俄狭間等明ケ墨築ニ置場
ヤトス新発田口ヨリ砲戦ヲ始ル右後堤ヲ乗ハ一向手人ヲ多ク城米蔵ニ米ヲ有係ル右
蔵長州七番小隊ノ捕ヲ節藏明ケ乱賊ヲ口ニ地雷火ヲ以テ宮落ニ人焼死

一武器蔵ハ兼ヲ多捕大小銃ヲ有ル

一長州振武隊津川ニ在小山ヲ始メ多捕営長加州ヲ始メ多数上ケ会津迄送ル途中
送ル能残ラズ死スルヲ

一津川ニ余程四五両宛ノ賊ヲ以テ官軍ヲ追撃ス皆ニ後第ノ場ニ於ルヲ
支ヒ之ヲ官軍ヲ追撃ス皆ニ後第ノ場ニ於ルヲ

今晩（四月）官軍進撃切迫故津川ヲ差払ヒ一夜ヲ中ニ十一度早加馬数ヲ右
故引多ノ津川戦争ハ四月廿四日ノ夜ヨリ

今津ニ三百人ヲ以テ矢津川宿陣ヲ設ケ会津城ヲ防ク
城中ヨリ同ク討ヲ出ル

一津川ニ兼テ人数ヲ繰出ス

一会津ヨリ津川ヲ着ク迄ノ間ニ会津落城ヨリ陽ヲ若松ヲ富ニツヲ別ヲ
ヤトス廿七日津川宿陣ヲ襲ヒ北人ヲ挙山林ニ隠レ陽迄一切ヲ無シ

一当ヲ帝ニ東京ヘ行幸有ヲ依テ長岡ヲ以テ会津落城ヨリ陽ヲ若松ヲ防ク
御陣落ニ乗ヲ長州千城隊撃ヲ

一越後村上ヨリ官軍ハ米沢ヲ押寄ヒ羽ヒ庄内ニ米沢ヲ援撃ヒ有米沢ヲ援兵ヲ出ス
軍艦ヲ明州坂田港ニ備ヲ有ニ付テ薩船攻撃ヒ有米沢ヲ援兵庄内ヲ手捨

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

人數引率升陽ノ由ヲ以テ後米沢白川口官軍ヲ令防迫切迫ス故ノ家老萱
州南先ニ降参ス諸藩ヘ
何故 朝廷ニ敵對スルヤ我ガ偽勅ヲ奉ジ
ヲ實効ヲ示サント南部仙臺ヲ一挙ニ追伐
墨ヲ相成ノ覚悟ニ
仙臺ノ領境ニ着陣ス大臺場築ヲ墨ヲ
一南ノ米沢ヲ始メ諸藩ノ勤王ヲ依竹ヲオゾミ
一著弘攻撃官軍大勝利ヲ得米沢降参依
南部ハ以テ勤王ヲ朝廷ニ於テモ仙臺ヲ追討ヲ命ゼラル
ヲ追ヒ 毫モ降ヲ賊ヲ國對ノ特堪ヲ節ヲ令ヲ解ク由
八月九日同ク津川正法寺宿陣

一津川今後所ニ仙人集ヲ我ニ（後今後所ヲ言ヲ）
ヲ薩長土ヲ心得ヲ慶今後ヲ
而防ヲ為

一兵部卿宮様附典藥頭山科務參事ヲ仁

一會津合体物心人數四万人程ヲ由（仙臺 米澤 両兵其外賊一與ニ大名人數ヲ由）

一九八日夜杉代ニ隊今朝後ヲ六小隊八田
進軍右ヲ筋ニ相分ヲ板中軍ヲ我程着ヲ

八月九日津川宿進軍昼頃八田村ニ着夫分焼山作事坂ヲ頂ニ着陣（鳥居峠ヲ奥州路ヲ）

一今津肥後割腹ヲ由市中不殘焼失城内殘ル家僅ニ官軍十重二重ニ取囲ヲ由

一説ニ早ヲ近ク五石人程ハ方代山ニ逃登ヲ其分ヲ日考街道ニ着家中一同迎ヲ由ヲ見

以上官軍ヲ述ヲ終ヲ

一 抑大八ノ官軍ハ川村ヲ砲撃夜ニ入砲声止ミアトニ
一 七番隊士吹大ノ津川ヲ徒出ス官軍ニ迫軍ニ四番大隊ノ後拝ヲ
津川今ノ議所ヲ占ム官軍一大隊ニ不成ヲ以テ進軍ノ後拝ヲ
一 賊人ヲ徴ス迫急ニ付津川ヲ五日朝ヲ以テ官軍ヲ若松ニ引ヲ
ル官軍ノ跡ヲ追ヒ一ノ本道ヲ進撃ス付賊官軍ノ敢テ
市街ヲ焼ク勿レ
五日ノ津川ヲ迫ル日夜下野尻ニ宿陣ス六日ノ早朝尻宿ヲ発シ
迫撃ス付ル者モ不来故ヲ以テ昼飯ヲ下野尻ニ喫シ
八月晦日下野尻宿暁七ツ時進軍野沢ヘ着宿陣ス
九月朔日大行院ニテ昼飯ヲ喫シ野沢中軍ノ後拝ヲ七番戦士半隊
松枝峠ヲ経テ坂下ニ出ル川向ヘ賊兵在候ヲ以テ暫ク相見ヘ
塩坪ヘ着ス処同所ヘ長州七番報国隊ヲ四番隊ヲ一小隊守衛ヲ以テ隊長詰合
蔵利田村七兵守衛ス付ル
中老ノ残ノ半隊ヲ以テ後進軍夜中故途中小嶋村近進軍宿陣
九月二日朝賊駒ヶ峯ヨリ堂塲篠ノ宇堂潜伏ス官軍芝崎ヲ進撃有之処賊残半隊
小峠ノ小ノ堀村通行ス時賊砲撃ヲ以テ官軍ヲ後援砲戦候ヲ以テ堂塲
芝崎ヲ直捜ス
一ノ吟集取ニ相成ル付ル
一ノ吟集取ニ相成ル付ル
一ノ吟集取ニ相成ル付ル

火向利田村ニテ小千山ノ館ノ原ニ退去ヤト云利田ニ引取休息其夜同所ニ陣

右二日早天ノ利田ヲ発スル平山博大就鳥村其外中山赤岩村山裏ヲ過テ赤岩中山村ニ戦ノ隊初メ進撃ヲ伊谷ノ宮ヨリ鳥村砲士ノ頭ヲ以テ四ツ時頃ヨリ

来リシカ七番戦士ノ戦争甚シク当日柴崎口宮軍進撃ノ手合ヤ等ト

二日戦争新発田ノ外ヘ引取ノ節戦ニテ薬ヲ負傷ノ者ハ

一会津領ハ当春領ヲ没収陸奥国信夫福島ヘ移封ヲ命ゼラル

一利田下没官ノ塩坪ヲ取ニ阿賀川ヘ行ク途中関門ヲ建ル

軍ノ事ヲ内役等ヲ両隊ヘ受ル者ヲ

右関門ヲ来ル大字公御武門長久ト云護摩供ヲ修シ来ル

同一大字武運長久ヲ祈祷ヲ行

一奥州白川口二本松ノ城下ヘ押寄米沢ヘハ越後村上口ヨリ攻撃ヲ並ニ庄内ヘハ海軍ヲ以テ

不意ヲ押寄ヲ事依テ竹堂王故依テ荘内戦争再会和談ヲ事ヲ

米沢降参ノ者ヲ墓ヲ奉ル南部ハ白川口ヲ切廻ヲ故ヲ依テ

或ハ会津ヲ越村上口ヨリ官軍ヲ引受白川口ヲ切廻南ノ裏ヲ切故ヲ羽州玉川官軍

ニテ多数ノ隊ニ降参申出ヨリ不得ヲ大勢ノ御ニ寛典ヲ添ヲ官軍ヘ

九月三日中軍ヨリ利田村向ヘ渡ル意ヲ模様ヲ指揮ヲ

ヲ船渡ヨリ守護長刀ヲ番報国隊ヲ白川向ヘ渡ル岸和田村ヘ着仕ル処賊向山ヨリ

築ヲ待設ヲ居ヲ引返シ戦後ヲ敵ヲ

ヲ当ル兵享相見ヘ申ト存ル山上ヨリ砲撃ヲ

峯兵享ハ昨二日迫撃ヲ長州千城隊ヲ付長州報国隊二日迫軍小千山ノ陣

右向山ヨリ戦篤火数ヲ発ヲ焼ヲ払申ト

九月四日早朝長州報國隊八番戦士七番戦士杉植隊一同小ツ子山村進撃味方山高森山
押警ら陣有ヤ名賊向山中央ニ数小隊ら防ぎ戦楯もるら来ル者ニ発砲
殺ス処ニ官兵奮撥ら多ク長州報國隊干城隊向山賊之左側面ニ出シ追討ら有賊兵
敗走莫逃走館ノ原村ヨリ放火処去申ト
木曽村ハ親兵干城隊ら追討右村ヨリ放火処逃去申ト

小ツ子山戦争

ら更 牧野功一郎
〃 杉植隊兵三人
討死 長州干城隊ら更ニ
二人
賊討有
五人
夫ヨリ館ノ原ヨリ追撃ら処賊河内川向河原田村ヨリ
ら更 田中左傳次
ら更 長州報國隊半隊司令士
十人

築ら云ヘ休息ら処賊砲発木曽村ヨリ味方ヲ引揚同所ニ堡塁築テ
警衛山右國干隊報國隊一番兵隊一帝親兵二六七番撃士牧野杉植吉村隊
ら堡塁築ら護衛 ロ河原田村ハ河内川ニツヨリ別ニ三里四方程ら島ニ
水ヲ湛ハ十里戦ヲハ長ニ出兵ら処ハ
一長州大石弥太郎ヨリ粟澤満実郎ニ粟澤ロ官軍ニ先鋒ニ七張筒先進ら杉代筒行ら
九月五日杉渡村大原村迄放火賊迄去官軍追撃子大小砲声烈シク追討有河原田村
賊ニ逃走 六日長州報國隊報第ニ名ら島山カラくニて
一ほ報兵隊長田村宇作林政太郎教後ロ四小隊七張ら島討死ら負ら出
二小隊ニ手負ハ六月十七日ニ七五ニて
一白川ロ歩兵三百人降参ニ付会津ヨリ報賊人数十今ニ有分郡ニ七死力程ニト
ら不穫ら有 官軍ニ降参ニ七十ト由城ニ二千人程報ヲ杉下田五百人共ト実説

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一白川口敵火ヲ築キ頻ニ砲丸ヲ発シ千余人ヲ有テ当攻ヲ
一廿日今明ノ間ニ有ノ大砲ヲ放ツ
一廿一日三ツ山村宿陣
九月二ノ日新宿陣
一仙台ヨリ官軍一行ヘ糧米玉薬等ヲ出シ降参ヲ勧ル
白川口ヨリ官軍ヘ糧米玉薬等ヲ出ス
仙台ヨリ降参ヲ勧ルニ和成ト申ス役ノ者
一仙台先ヲ実ヲ探ル為ノ事ニテ如何ノ事ヲ
一南部ヨリ藤長岡ヘ討入ノ計略ヲ以テ其ノ城ヘ入込ノ多クハ皆ナ
ニ紛レ

一会津当春ヨリ米沢ヘ三ヶ所ニ別レ若干ノ山本当村迄ノ賊ハ米沢ヨリ降参
官軍ヘ降参ノ者追々ニ逃去ル
山内ノ大学寺ヨリ防戦陣由ニテ所ハ義城ヘ兵ヲ
山内ハ越後ヘ出ル為ニ兵ヲ隊長ヲ残ハ皆城ヘ
一越後村上ハ荘内ヲ押ヘ智実ヲ手ヨリ経テ義城ヘ
ニ連テ自殺抑留義ニ為ノ家中城
一米沢ハ新参ハ弐ノ天勢頗ル老ヒ連ヲ張陣
一廿日ヨリ放火ノ門ヨリ奥州白川ハ官軍日光ヨリ
挟ミ討取ノ計略ヲ以テ
右ハ白川口軍勢ヨリ越後ヘ官軍ツナギ
一三ツ山村ヨリ長州千城隊ヘ

一 花ノ攻撃モ甚軍ハ多勢薩摩ニモ
一 四日ノ根山戦争ニ敵敗走館ノ原ニ三ツ山ニ長州千城隊報国隊追討ノ実戦ニ而
人数近ク隊司令士トモ見ヘト奴原抜身ヲ指揮
ニ側近ク懸ル所ニ人討留ルヘテ不引進撃長州兵之ヲ
ニ及ヒ雷ノ撃剣兵ヲ七番八番抜刀隊ヲ根山進撃ヲ館屋敷有ル迄ヲ
長州ノ咄ニ右愈援ヲ三ツ山ニ於テハ皆殺ニ敵不ト謀ヲ必死ニ受居ト云ヘリ
一 越前兵ニ人数林藤兵部隊ハ弱兵ニ而ニ余ハ弱兵ニ而
一 撃剣ニ而ニ弱兵白川口七兵ニ人数ハ弱兵
一 五日夜若松城ニ雷ヲ放火 六日夜ニ放
一 長州隊長ト云ヘ共ニ討死ヲ負ヲ神ヲヘテ一先ハ細入ニ上ル命令ヲ為ス隊長、

ヲ撰ムヲ咄ノヘト

九月七日 三ツ山村宿陣

一 今晩下ハ家中ヲ女婦共中ニ長刀ヲ加テ七討死ト有ヲ者ヲ

石ヲ白川口官軍相図旗

九月八日 三ツ山宿陣

一 賊越後三條ヲ六百人ヲ吊ヒ攻ル由 官軍ヲ板長図対陣ヲ談ヲ
同九日 松代 七番一小隊 事都御親兵ニ長州千城隊一 進発後長州報国隊ニ本営
村口谷村ヲ寺内山賊ヲ當ヲ為ニ私峠進撃ヲ板中軍令ヲ指揮ヲ有夜四ツ時
項三ツ山村進軍向ヲ進ヲ難有ヲ夜中進軍途中ヲ夜明ヲ相成ル

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

九月十日未明ニ寺内山戦ヒ終リテヤト虜塞ヲ乗取リ松峠ヘ進撃ス此夜右後隊大墓場築ヲ百五十人後ニ続ク翌十一日本道ヲ松代藩兵二小隊干城隊報国隊ヲ進撃ス両道敵ヲ後山ヘ拠ル芝阪ヲ乗取リ後頂取切ニ繰開キ関ヲ発シ三四発打合ノ内ニ敵僅ニ三発打合ヒテ逃走ス依テ小荒井ヘ着陣ス追討ノ為小荒井ヲ焼払ヒ又ヒヤト引返シ其夜小荒井ヲ家荒町ヘ移ス

荒町ヨリ八号洋迄五里半

九月十一日松代藩戦志隊（松枝）ヲ親兵二干城隊一長州作隊ヲ小荒井宿ヨリ本道塩川ヘ先ス

ヒヤトヨリ進撃ス松代軍指揮ヲ以テ小荒井ニ着暫ク休息右翼ヨリ急ニ向ヒ干城隊右翼ヲ御家老ハ六番戦士牧野吉村隊急ニ後ヨリ追討ヲ以テ敵左翼ヘ向ヒ松代ヲ進撃ス松ノ事故暫時休息後左翼ヘ急ニ向ヒ小兵銃ヲ敵ニ備ル物見ヲ以テ本道大敵ヲ進軍ス依テ敵敢兵ヲ以テ潜伏攻ヲ以テ

不意ヲ討包撃ス新義隊松隊引上ル村近引揚ル又苦戦有小荒井ヨリ本道ヲ塩川ヘ進撃ス右翼干城隊ヨリ義兵七番戦士松枝隊ヨリ村ヘ急後ヨリ横撃ス敵大ニ狼狽ス此夜入地形モ不見敵ヲ追ヒ味方ヲ敵ト心得同士打ヲ始メ相見ヘ味方兵粮運送ヲ差支ル事ヲ見テ村ヘ引揚味方後ヨリ敵ヲ追松ヲ有之ニ日未明ヨリ諸隊ヲ以テ昨日引揚墓場築ヲ厳ニ警護ス

九月十二日見ル家陣

一昨日ノ松者ヲ小荒井進軍ヨリ村ヘ進撃ス後村小荒井ヘ戦闘者ヲ残シ包囲ス放火ス

十日同断ヲ包撃ヲ終ヲ故甚ヲ難戦

上ヲ村小田村戦争

戦死

松枝半隊司令士　藤井芳部

負

小林勝太郎

砲隊半隊司令士　中村順天郎

負

三梅半部

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

手負　　近藤五三郎
戦死　　牧野隊兵二人
手負　　牧野隊兵十人

右能久公小田村与三村金毅薪戦之賊長幷旗を以下知歩行迫来るを
牧野吉村六八等銃士引揚ト存弾薬五ツ兵糧不手捨迫来ル味
方甚不都合

一地蔵共六敵後迂回之旨報ス故敵も恐れ迫来ル其節招福彦四郎賊二人
鐘ヶ突堂ノ当所ニ前島七郎一人討留都合六人討留ル其節藤井善郎討死

一十二十三ヶ条狩富陣

九月廿四日整列一小隊敵第一小隊長州千城隊一日親兵二隊ノ一小隊
小荒井迄進軍政岳明廿五日曉八ツ時能久公一進撃ス明ケ六ツ時敵

城中ヨリ報有安勝寺ヲ寺ニ宿陣

右能久公千城隊ノ一小隊ハ金川辺ニ引取米澤ノ兵千人祝能久公
ヲ先ニ追撃ス

一米澤隊参着ス翌廿六日能久公ハ千人ヲ先ニ
七張ノ方ヘ賊迫ル方ヘ

一今津兵隊ヲ以テ討死ト覚悟ヲ定メ味方ヲ
能久公ヲ受取別ニ参ル

城下岩山ヨリ七張ノ兵ヲ引揚ル由ヲ聞御家ヲ
ヲ以テ御家ヲ守ル

一九月十五日能久公迫撃ニ引取ル
旧十六日小荒井ヨリ坂下ニ宿陣

和睦ニ相成ル

九月十五日能久公迫撃ニ引取ル味方小荒井ニ宿ス
旧十六日小荒井ヨリ坂下ニ宿陣ス

、進軍金児大砲護衛ヲ以テ会津城下ヘ迫撃ノ時ニ用
意調ひ、和仏戦ノ迅引ヲ観ズル以下宿陣

九月十七十八十九日坂下宿陣

一二十八日坂下ヲ一里半隔リ宮田村ニ賊兵集ヒ行宮軍進撃ニ相成賊ヲ四方田嶋ヲ指テ逃去ル中ニ御家ノ人金児小宮山吉村五八番戦士ヲ追討
右賊ハ会津領ヲ指テ城ニ入ルヲ以テ兵ヲ纏出ス賊其ノ長岡兵丹羽ノ兵ヲ以テ
四里ノ道ヲ一途ニ逃去ル中ニ坂下ヲ五里ヲ引揚休息

十二日三四ノ両日坂下見物

一五番戦士我後ヲ越シ先ニ出張ス行途中太平ニ
附ノ事ヲ五ツ事ヲ笑ヒ下ル
一本番士一組宛ノ人数ヲ以テ小隊ヲ編成ス

五番戦士
砂川隊

七番戦士
板垣隊

六番戦士
牧野隊

八番戦士
吉村隊

右ノ外ニ二組ヲ以テ一小隊トシテ番ス

金児隊

右ハ富田中子記陽月念六写ヲ合章精舎燈下

堅臥真逸

㊂河口嘉助寄其家翁書　九月九日ノ戦ニ三日会家ニ被在歩兵共日ニ会ニ
会城ヲ発申ニ九月九日ノ城方砲撃不仕甚ダ如ク八月ニ
会亮ヨリ是迄忠節ヲ尽セシ四方ノ北国戦争ニ会人ノ捕ニ
当日官軍、後追ニ成形ノ城下ニ近寄町々ニ火ヲ掛
頻ニ城ヲ銃砲ヲ出シ外町不残焼立中ニ挟テ官軍白川口ヲ押寄
会下ニ施変ニ付始　暫ク有テ官軍白川口ヲ押寄
此時会城家老文武両道砲長千二百石横山主税討死四月一日ニ
此者当時十五ニ成ル若武者ニ成シニ知仁勇ヲ兼会ニ
当家ヲ説ニ味方ニ致セシ由城ニ籠ニ軍将ニ成ニ
八月二日城外ヲ十字ニ守ニ固ニ城中ニ後援ニ
多分勢籠ニ城ヲ堺ニ矢倉篭節師ニ如ク馬人ニ

とて其相合う詰前、十二日十三の十四日と老若男女皆寒餓うる菩提寺或八里程隔し大谷仁某ら治行の由聞ゆるや千人餘と寄る赤岡村ゟ三里余城下へ羅致し家中ゟ降人守備をつる物改ゟて籾蔵并納屋等まで伺差下ゟ

別紙

九月十三日赤岡村ゟ道程三里余有ゟ城下ゟ和兵、羅致人別法華寺并西の方道辺寒嵐及ひ雪中或ハ新家或ハ納屋馬之助多事比市五郎後大砲ゟ宮て欽次郎ゟ御使士廣手川作太私宿屋大砲ゟ御修ゟ今城ゟ於路次ゟ城下町ゟ死人五六人唱頭胴ゟ別ゟ或ハ手足ゟ解ゟ死骸多分ハ、人足ゟ者共ゟ町ゟ曲輪ゟ九ゟ通行ゟ為存致ゟ家中ゟ残焼失候ゟ四五軒ゟ残ゟ分皆家根ゟ屋台計ゟ焼残りゟ外

俄仕人別左之通書之行當を始め小荷駄等之人別十二才ゟ七十迄之強壮之人
二千計り多形り不同ゟ関ボウ檀尺長ゟ者も有ゟ或ハ簑笠陣羽織少袴義経
袴陣笠江川笠頭巾等色〻ニて支度ゟて大身と思ハれ士六位四五人ゟ連ハ
者も有ゟて右躰之人ハ十二三人ゟ義ゟ外ゟ隊伍ゟ離れ士ハ皆更ニ包物ゟ荷ひハ或ハ長持
ゟ類多馬も七八疋ヨリ多ク皆ゟ鞍坪ゟ様荷物サ〻究ハ待ゟ一時計
り後ゟ下ゟ其道服ゟ馬置大砲ハ鏡ゟ有ゟ数挺ゟ有ゟ皆服袴等も異ゟ有
り松ゟ密奥等ゟニて隊ゟ物ゟ多ゟ有様ニて右ハ一方山手口ハ東ゟ方ゟ
望ゟ至ゟて多ゟゟ様ゟ向ハ大土手ゟ廿一名ゟ下ゟ多隊伍ゟて
式ゟ三ゟ山ゟ多ゟ東山ゟ云ヒ下ゟ有ゟて大砲十五門程至候ハ打之ハ場所之
ゟ数多ゟ敵勢ゟ為ゟ一刀等し半ゟ程ゟ寺ニ引取ゟ而 今日ゟ源人
義ゟゟ残ゟ勢ゟゟ等しハ打死ゟ右ゟ場所ゟ死人仏十ハ程前ゟ或ハ引
聊ゟ取切品ゟゟ死人水ニ浮ゟゟ若ハ家中小路ニ粉ゟ死人ゟ多ゟ有
ゟゟ而ゟ女男老若男女貴賤一定ゟ荷ゟ持ゟ行ゟ者ゟ多ゟ有ゟ貴行ゟ老ハ杖ゟ便
り行ゟ有ゟ大ゟゟ右ニ而ゟ事ハ申ゟ竹内又五郎ゟゟ事談ゟて右ゟ通ゟ話ゟ
九月廿二日

書ゟ成行を　佐野

永七業ゟ号ニゟ様ニ一緒ゟ無事ゟ我ゟ
若ゟ内ゟ様ゟ来ゟ様ゟ我ゟ
老若ゟ俄ゟ様ゟ三科ゟ鏡
行ゟ方ゟ様ゟ様ゟ様ゟ
宛行ゟ様ゟ様ゟ秋ゟ

会津家老ゟ

二千八百石　小荷矢太ゟ

二千二百石　内藤帯刀

手七百石　田中玄佐
手兵百名　西郷将毎
手二百石　一ノ瀬源四郎
〃　白川口ヲ守ル　横山主税
手兵百名　梁瀬三子衛
〃　上下ノ七千人ヲ以テ
会津城下ヲ守ル
手兵百名　柏野五兵衛
〃　大鹿多郎右衛門白川口ヲ守ル
手二百名　山川兵衛
〃　八千石
手兵百名　萩原平馬

○又　九月六日

先日追討ニ参ル残賊ノ先鋒ヲ組ス富ノ者ノ外陣屋有ノ者ハ集ス兵ヲ十里峠ニ在ハシメ警衛ス
尾村ヨリ追ヒ立ル五百ノ押寄朝敵ト加州ノ勢ヲ大ニ砂子坂ニ於テ兵粮千五百表ト大筒数挺外兵器ニ於テ奪取ス
二三ノ敗軍ノ者ヲ召捕ル右ノ分赤沼村ヨリ近道ヲ越川口近辺ニ進発ス
後詰ヲ七ツ屋ノ方ニ出ス
三門ノ者ヲ始メ富ノ者七十五名敵ト到底ノ外箱根ヲ大ニ守ル
川口陣ヨリ注進ニ依テ
別口防衛トシテ

○又　九月七日夜

会城ヲ衝ク衛隊隆衆義成会僕ノ城ヲ守ル北二十丁許瀧澤村妙国寺ヲ本営トス退ク者謹慎ス
存寄ノ者申出ヘシ下ノ残井苗代ヲ取ル者ハ
御咎メ
其兼私ノ金高ヲ書取ヘシ従ヒ
三門ノ者ヲ始メ富ノ者七十五名敵ト到底ノ外箱根ヲ大ニ守ル
川口陣ヨリ注進ニ依テ
別口防衛トシテ
と芝ノ会議ニ而高田村ト云フ所ヲ許ス大鳥ヲ根拠トス
居ル賊ヲ当十八日進撃速追撲ス大内田辺ノ方ニ退ク先ツ会津近郊平地ニ於テ抗衡ス賊ヲ更ニ
会津ノ賊モ已ニ降参ス事現ニ承知仕ト唯ヲ若殿計ヒ近辺ノ賊徒ニ而人不隆伏
飯山高遠加州富山ヲ始メ諸ヲ国ヲ十ニ七日ノ戦有ヲ処ノ強賊ヲ右諸国ヲ大敗ヲ依テ
叶津ヲ国ヲ破リ奉ル
御家ヲ強兵ヲ討攘致シ候度ト会議ノ上ヲ頼ム存一昨日柏穂峠
川筋ヨリ隊繰出シ
堂ノ金堂牧野ノ宮山秋ヨリ外諸ヲ降出シ
ソコヘ妻ヲ賊士ヲ加ヘ下ノ川安次郎ト言人隊長ヲ会ヲ敗賊ヲ相従ヒ其代猪

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

百姓を頼ひ、家の故不日の相改仕事なく、へ小家を
付此日相頼若松城下見物罷越不図も兼漢書武部後漢書
等下直に付求求ニ而も高田を撃ち後　田辺七蔵完男撰
人撰之中る字多被中村孝太郎清水石仏徳四郎ニ俱ニ
先首尾好相勤罷帰ル上若松城下見物後ニ而ハ
ナシ

九月十七日夜

力馬

九月十八日

當地ハ今般降参然ル処残賊ニ而田島
相通ル越入ル程大戦争加州富山上田水戸飯山勢ニ而大敗軍其上弾薬兵数多
被奪取二十里程ハ外逃去候ニ為後程
出ル筈ニ候ト雖モ右敗軍ニ人物ハ一揆同様
之者共ニ候ハヽ何を仕出シ可申も難計
候ニ付近隣ニ至砲声ハ等ニ先降参ニ相
候ハヽ而ハ如何ニ可有之哉ニ付
御家老ハ

九月十八日

㊀　柿崎病院之次第倉田孝順高家厳書

大病院會議所　　仝廻診局

仝調合局

右ニ通諸局ニ座シて其局々預處方ニ通
會議所

仝取締方

右ヶ病院頭取并ニ副頭取其外先生ヶ出席勤病局之義ニ抱リ事ニ従ヒ此局ニ於テ
會議之上其役ニヤ渡有之ニ処ニ座ヲ以上

迴診局

右ヶ盆満医師一人ツヽ毎日毎夜出番詰満之病院預之医ヨリ診察之ヲ度類ヶ渡ル
得ヶ其局ニ於テ診察致ス容体并ニ薬法調合局ニヤ通ル役ニ座ル

調合局

右ヶ出勤之医師日夜出勤四診局医師ヶ診察之患者容体薬方申来ル其剤
調合投與致ス役ニ座ル

一取締方

右ヶ各病院ニ一方ニ相渡ス処ニ座ヲ以上

㊂明治元年戊辰十月僕漫遊而将歸京師辞北越取途於科野道路陝隘絶峻之際諸藩構新關事極嚴密矣僕固萍流之客未曽持官府之印至東野川之關蓋尾藩之所守而關吏詰之安得容易過哉僕最困矣容歳八月游於松代曽邂逅於静山立田老先生有席上見惠芳詩二篇即出而示之關吏曰善曽聞静山先生之名足以為證請惠其一囘分與一篇以易官印而過關嗚呼先生之仁徳不啻爲蒼之術尼紙之寸墨終濟僕窮途之

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

苦不堪感銘實可謂一奇談矣乃賦一詩以
奉謝矣
世路回頭塵萬堆飄游飛足實難哉謝君珠玉一篇
賦照破鼓雲愁露來

平安　高橋敏明再拜

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

以詩一首乃賦一詩以
奇談実可謂一語
銘塵不堪感

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用